

有価証券報告書

(第90期) 自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

この書類（このページ及び目次を含まない）は、EDINETで提出した元データを出
力したものに、当社が独自に目次を付したものです。

（EDINETの閲覧から出力したものではありません。）

森永乳業株式会社

(E00331)

目次

【表紙】	1
第一部【企業情報】	2
第1【企業の概況】	2
1【主要な経営指標等の推移】	2
2【沿革】	4
3【事業の内容】	5
4【関係会社の状況】	6
5【従業員の状況】	8
第2【事業の状況】	9
1【業績等の概要】	9
2【生産、受注及び販売の状況】	10
3【対処すべき課題】	11
4【事業等のリスク】	13
5【経営上の重要な契約等】	14
6【研究開発活動】	15
7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	18
第3【設備の状況】	20
1【設備投資等の概要】	20
2【主要な設備の状況】	21
3【設備の新設、除却等の計画】	25
第4【提出会社の状況】	26
1【株式等の状況】	26
(1)【株式の総数等】	26
(2)【新株予約権等の状況】	27
(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	42
(4)【ライツプランの内容】	42
(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】	42
(6)【所有者別状況】	42
(7)【大株主の状況】	43
(8)【議決権の状況】	44
(9)【ストックオプション制度の内容】	45
2【自己株式の取得等の状況】	47
3【配当政策】	48
4【株価の推移】	48
5【役員の状況】	49
6【コーポレート・ガバナンスの状況等】	52
(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】	52
(2)【監査報酬の内容等】	58
第5【経理の状況】	59
1【連結財務諸表等】	60
(1)【連結財務諸表】	60
①【連結貸借対照表】	60
②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】	62
【連結損益計算書】	62
【連結包括利益計算書】	63
③【連結株主資本等変動計算書】	64
④【連結キャッシュ・フロー計算書】	67
【注記事項】	69
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	69
(未適用の会計基準等)	71
(連結貸借対照表関係)	72
(連結損益計算書関係)	73
(連結包括利益計算書関係)	75
(連結株主資本等変動計算書関係)	76
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	78
(リース取引関係)	79
(金融商品関係)	81
(有価証券関係)	84

(デリバティブ取引関係)	86
(退職給付関係)	88
(ストック・オプション等関係)	89
(税効果会計関係)	94
(資産除去債務関係)	95
(賃貸等不動産関係)	95
(セグメント情報等)	96
【セグメント情報】	96
【関連情報】	98
【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】	99
【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】	99
【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】	99
【関連当事者情報】	100
(1株当たり情報)	100
(重要な後発事象)	100
⑤【連結附属明細表】	101
【社債明細表】	101
【借入金等明細表】	102
【資産除去債務明細表】	102
(2)【その他】	103
2【財務諸表等】	104
(1)【財務諸表】	104
①【貸借対照表】	104
②【損益計算書】	107
【製造原価明細書】	108
③【株主資本等変動計算書】	109
【注記事項】	112
(重要な会計方針)	112
(貸借対照表関係)	113
(損益計算書関係)	115
(株主資本等変動計算書関係)	117
(リース取引関係)	118
(有価証券関係)	120
(税効果会計関係)	120
(資産除去債務関係)	121
(1株当たり情報)	121
(重要な後発事象)	121
④【附属明細表】	122
【有価証券明細表】	122
【有形固定資産等明細表】	123
【引当金明細表】	124
(2)【主な資産及び負債の内容】	125
(3)【その他】	130
第6【提出会社の株式事務の概要】	131
第7【提出会社の参考情報】	132
1【提出会社の親会社等の情報】	132
2【その他の参考情報】	132
第二部【提出会社の保証会社等の情報】	133
連結／当年／監査	134
単体／当年／監査	136

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月28日
【事業年度】	第90期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
【会社名】	森永乳業株式会社
【英訳名】	Morinaga Milk Industry Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 宮原道夫
【本店の所在の場所】	東京都港区芝五丁目33番1号
【電話番号】	03(3798)0116
【事務連絡者氏名】	財務部経理課長 町田勝重
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝五丁目33番1号
【電話番号】	03(3798)0116
【事務連絡者氏名】	財務部経理課長 町田勝重
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (百万円)	583,910	585,116	583,019	578,299	591,197
経常利益 (百万円)	11,235	17,018	18,746	13,187	10,551
当期純利益 (百万円)	4,254	8,017	6,164	4,608	5,016
包括利益 (百万円)	—	—	8,908	5,635	6,133
純資産額 (百万円)	97,497	103,635	110,310	113,935	116,750
総資産額 (百万円)	348,111	357,880	348,394	366,190	368,498
1株当たり純資産額 (円)	378.61	405.26	434.37	449.35	469.07
1株当たり当期純利益金額 (円)	16.83	31.78	24.57	18.39	20.04
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	16.81	31.72	24.52	18.34	19.98
自己資本比率 (%)	27.5	28.4	31.3	30.8	31.4
自己資本利益率 (%)	4.4	8.1	5.9	4.2	4.4
株価収益率 (倍)	17.5	11.6	12.1	17.7	14.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	31,333	29,497	30,913	23,342	21,055
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△26,023	△15,587	△17,388	△14,221	△13,312
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△5,987	△4,762	△15,959	△2,889	△6,859
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	3,411	12,555	10,101	16,336	17,305
従業員数 (名) 〔外、平均臨時雇用者数〕	5,739 〔1,971〕	5,653 〔2,087〕	5,627 〔2,844〕	5,639 〔2,751〕	5,712 〔2,617〕

(注) 1 売上高には消費税等は含めておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (百万円)	445,045	450,435	444,593	437,330	446,218
経常利益 (百万円)	9,227	12,987	13,607	8,701	5,977
当期純利益 (百万円)	2,822	6,444	4,287	2,654	2,394
資本金 (百万円)	21,704	21,704	21,704	21,704	21,704
発行済株式総数 (株)	253,977,218	253,977,218	253,977,218	253,977,218	253,977,218
純資産額 (百万円)	68,854	73,308	78,916	80,649	80,977
総資産額 (百万円)	276,664	294,785	288,661	304,178	310,518
1株当たり純資産額 (円)	272.24	291.55	314.22	321.05	327.11
1株当たり配当額 (円)	6.00	7.00	7.00	7.00	7.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益金額 (円)	11.17	25.55	17.09	10.59	9.57
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	11.15	25.50	17.05	10.56	9.54
自己資本比率 (%)	24.8	24.8	27.3	26.5	26.0
自己資本利益率 (%)	4.1	9.1	5.6	3.3	3.0
株価収益率 (倍)	26.4	14.4	17.4	30.7	30.0
配当性向 (%)	53.7	27.4	41.0	66.1	73.1
従業員数 (名)	3,103	3,103	3,092	3,091	3,122
[外、平均臨時雇用者数]	[360]	[528]	[738]	[726]	[689]

(注) 1 売上高には消費税等は含めておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2【沿革】

当社は、大正6年乳製品の製造販売を主たる事業目的とする日本煉乳株式会社として設立されました。その後森永製菓株式会社との合併分離を経過して、昭和24年、現在の森永乳業株式会社が設立されました。

昭和42年10月、生産販売一体の実をあげるため森永商事株式会社の乳製品販売部門を譲り受け今日に至っておりますが、当社を含め企業集団に係る概要は次のとおりであります。

西暦	年月	概要
1917年	大正6年9月	日本煉乳株式会社設立
1919年	〃 8年5月	小缶煉乳森永ミルクを発売
1920年	〃 9年7月	森永製菓株式会社と合併し、同社畜産部(後に煉乳部)となる
1921年	〃 10年11月	森永ドライミルク(育児用粉乳)を発売
1927年	昭和2年9月	森永製菓株式会社煉乳部を分離し、新たに森永煉乳株式会社設立
1929年	〃 4年12月	森永牛乳を発売
1933年	〃 8年9月	森永チーズを発売
1937年	〃 12年7月	森永ヨーグルトを発売
1941年	〃 16年5月	森永煉乳株式会社を森永乳業株式会社に改称
1942年	〃 17年10月	森永製菓株式会社と合併
1943年	〃 18年11月	森永製菓株式会社を森永食糧工業株式会社に改称
1947年	〃 22年6月	森永アイスクリームを発売
1949年	〃 24年4月	森永乳業株式会社設立
1954年	〃 29年9月	東京証券取引所に株式上場
1957年	〃 32年4月	東京工場を開設
1959年	〃 34年4月	阪神工場(現近畿工場)を開設
1961年	〃 36年4月	クリープ(粉末クリーム)を発売
1966年	〃 41年1月	名古屋市乳工場(現中京工場)を開設
1966年	〃 41年2月	東京多摩工場を開設
1967年	〃 42年10月	森永商事株式会社の乳製品販売部門を譲り受け
1970年	〃 45年2月	クラフト社(現クラフトフーズ・グループ社、モンデリーズ・インターナショナル社)と提携 エムケーチーズ株式会社(現連結子会社)を設立
1970年	〃 45年6月	大和工場および村山工場を開設
1971年	〃 46年12月	サンキストグローワーズ社と商標の使用契約を締結
1973年	〃 48年2月	利根工場を開設
1975年	〃 50年10月	別海工場を開設
1977年	〃 52年6月	森永ビヒダス(ビフィズス菌入り乳製品)を発売
1981年	〃 56年4月	ロングライフのハンディパック乳飲料(ピクニック)を発売
1984年	〃 59年9月	リプトン社(現ユニリーバ・ジャパン・ビバレッジ社)と商標の使用契約を締結
1985年	〃 60年5月	Morinaga Nutritional Foods, Inc.(米国)(現連結子会社)を設立
1989年	平成元年10月	研究・情報センターを開設
1993年	〃 5年2月	マウントレーニア・カフェラッテ(カップ入り乳飲料)発売
1993年	〃 5年6月	低リンミルクL.P.Kが特定保健用食品の第1号として厚生省から許可を受ける
2003年	〃 15年4月	「ラクトフェリンの工業的な製造法の開発」文部科学大臣賞受賞
2005年	〃 17年3月	富士乳業株式会社(現連結子会社)三島工場(新製造棟)稼働
2005年	〃 17年4月	全国の販売子会社9社を株式会社デイリーフーズ(現連結子会社)に吸収合併
2006年	〃 18年1月	神戸工場を開設
2007年	〃 19年12月	東北森永乳業株式会社(現連結子会社)設立
2008年	〃 20年6月	別海工場チーズ新棟稼働
2008年	〃 20年8月	沖縄森永乳業株式会社(現連結子会社)新工場(中頭郡西原町)稼働
2010年	〃 22年2月	北海道森永乳業販売株式会社(現連結子会社)設立
2011年	〃 23年9月	郡山工場、徳島工場の生産を中止(平成24年3月閉鎖)
2011年	〃 23年10月	九州森永乳業株式会社の生産を中止

3【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社65社および関連会社8社で構成され、市乳、乳製品、アイスクリーム等の食品の製造販売を中心に、さらに飼料、プラント設備の設計施工、その他の事業活動を展開しております。当グループの事業に係わる各社の位置付けおよび事業の系統図は次のとおりです。

(1) 当グループの事業に係わる各社の位置付け

① 食品事業（市乳、乳製品、アイスクリーム、飲料など）

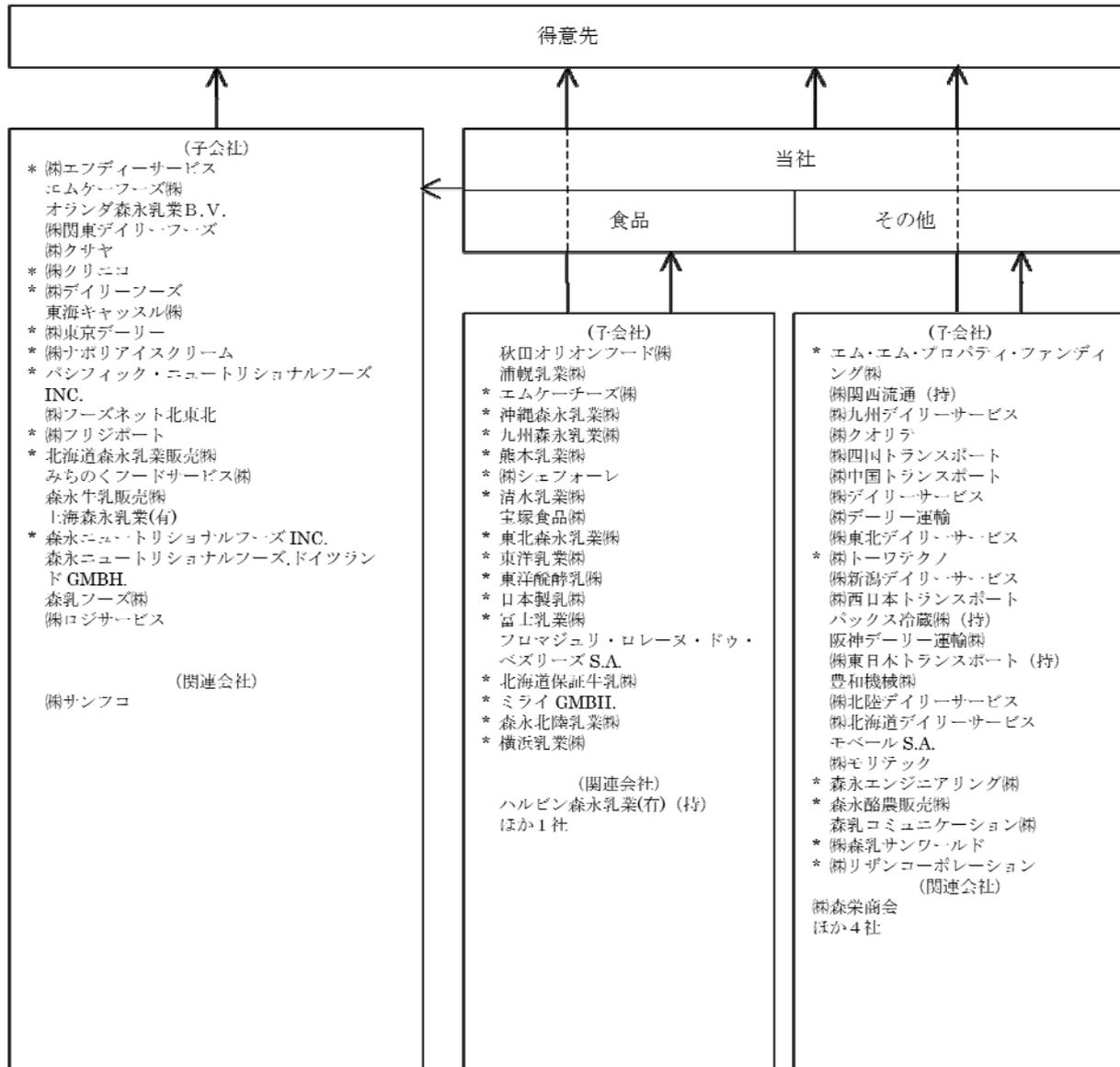
当社が製造販売するほか、当社が販売する商品の一部をエムケーチーズ㈱、横浜乳業㈱、富士乳業㈱、東北森永乳業㈱ほか17社に委託製造を行っております。また、㈱デイリーフーズほか21社は、主として当社より商品を仕入れ全国の得意先に販売しております。

② その他の事業（飼料、プラント設備の設計施工など）

森永酪農販売㈱が飼料、㈱森乳サンワールドがペットフードの仕入販売を行っております。

森永エンジニアリング㈱ほか27社は、プラント設備の設計施工、不動産の賃貸、運輸倉庫業などを行っております。

(2) 事業の系統図



- (注) 1. 九州森永乳業㈱は、平成23年10月末をもって生産を中止し、清算手続きを実施しております。
 2. 前連結会計年度まで非連結子会社であった㈱沙羅は、会社清算いたしました。
 3. 前連結会計年度まで持分法非適用の関連会社であったMF S ㈱は、会社清算いたしました。
 4. →は製品および商品の流れを示しております。
 5. *の会社は連結子会社、(持)の会社は持分法適用会社です。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱デイリーフーズ (注) 2, 5	東京都港区	497	食品	100.0 (10.0)	市乳、乳製品等の販売会社であり、当社従業員8名がその役員を兼務しております。
東北森永乳業㈱	宮城県仙台市宮城野区	470	食品	100.0 (12.0)	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員8名がその役員を兼務しております。
㈱フジポート	東京都港区	310	食品	100.0 (7.7)	乳製品等の販売会社であり、当社従業員10名がその役員を兼務しております。
東洋乳業㈱	広島県広島市安佐北区	215	食品	100.0	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員7名がその役員を兼務しております。
エムケーチーズ㈱	神奈川県綾瀬市	200	食品	100.0	当社仕入商品の製造会社であり、当社役員1名、従業員8名がその役員を兼務しております。
㈱クリニック	東京都目黒区	200	食品、その他	100.0	栄養食品、医薬品等の販売会社であり、当社役員1名、従業員10名がその役員を兼務しております。
㈱東京デリー	東京都江東区	121	食品	100.0	チーズ等の販売会社であり、当社従業員6名がその役員を兼務しております。
㈱リザンコーポレーション	東京都目黒区	100	その他	100.0	不動産の賃貸、営業用車輛等のリース会社であり、当社従業員6名がその役員を兼務しております。
九州森永乳業㈱	福岡県筑紫野市	98	食品	100.0	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員2名がその役員を兼務しております。
森永北陸乳業㈱	福井県福井市	90	食品	100.0	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員8名がその役員を兼務しております。
㈱トワテクノ	広島県広島市安芸区	90	その他	100.0 (16.9)	プラントの設計、施工及び機器の販売会社であり、当社従業員7名がその役員を兼務しております。
㈱森乳サンワールド	東京都港区	61	その他	100.0	飼料等の販売会社であり、当社従業員9名がその役員を兼務しております。
㈱シェフオーレ	千葉県八千代市	60	食品	100.0 (33.4)	手作りデザートの製造会社であり、当社従業員9名がその役員を兼務しております。
森永酪農販売㈱	東京都港区	42	その他	100.0 (20.1)	飼料等の販売を行う会社であり、当社役員1名、従業員7名がその役員を兼務しております。
東洋醗酵乳㈱	愛知県名古屋市緑区	30	食品	100.0	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員6名がその役員を兼務しております。
北海道森永乳業販売㈱	北海道札幌市白石区	30	食品	100.0 (49.0)	市乳、乳製品等の販売会社であり、当社従業員9名がその役員を兼務しております。
㈱ナポリアイスクリーム	東京都新宿区	20	食品	100.0	アイスクリーム類の製造・販売会社であり、当社従業員4名がその役員を兼務しております。

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱エフディーサービス	愛知県刈谷市	10	食品	100.0 (100.0)	物流業務の受託・運営等を行う会社であり、当社従業員4名がその役員を兼務しております。
ミライGMBH. (注) 2	ドイツ ロイトキルヒ市	百万ユーロ 25	食品	100.0	原料乳製品の製造販売会社であり、役員を兼務はありませぬ。
森永ニュートリショナルフーズINC. (注) 2	米国カリフォルニア州 トーランス市	百万ドル 21	食品	100.0	豆腐他大豆加工食品の販売会社であり、当社従業員3名がその役員を兼務しております。
日本製乳㈱	山形県東置賜郡高島町	140	食品	99.1	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員5名がその役員を兼務しております。
富士乳業㈱	静岡県駿東郡長泉町	50	食品	98.8	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員7名がその役員を兼務しております。
沖縄森永乳業㈱	沖縄県中頭郡西原町	305	食品	97.3	市乳製品等の製造・販売会社であり、当社従業員8名がその役員を兼務しております。
熊本乳業㈱	熊本県熊本市	50	食品	97.0	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員6名がその役員を兼務しております。
横浜乳業㈱	神奈川県綾瀬市	60	食品	96.5 (11.7)	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員7名がその役員を兼務しております。
森永エンジニアリング㈱	東京都港区	200	その他	90.0	プラントの設計、施工及び機器の販売会社であり、当社従業員4名がその役員を兼務しております。
北海道保証牛乳㈱	北海道小樽市	97	食品	87.2	当社仕入商品の製造会社であり、当社役員1名、従業員5名がその役員を兼務しております。
パシフィック・ニュートリショナルフーズINC. (注) 2	米国オレゴン州 テュアラティン市	百万ドル 21	食品	80.0 (80.0)	豆腐他大豆加工食品の製造会社であり、当社役員1名、従業員4名がその役員を兼務しております。
清水乳業㈱	静岡県静岡市清水区	54	食品	79.3	当社仕入商品の製造会社であり、当社従業員7名がその役員を兼務しております。
エム・エム・プロパティ・ファンディング㈱ (注) 3	東京都港区	10	その他	—	提出会社は、同社との契約に基づき匿名組合に対して出資しております。

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社に該当しております。

3 持分は100分の50以下ですが、実質的に支配していると認められるため子会社としたものであります。

4 上記の会社はすべて有価証券届出書又は有価証券報告書の提出はしておりません。

5 ㈱デリーフーズの売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）が連結売上高に占める割合は10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	102,081百万円
	(2) 経常利益	507百万円
	(3) 当期純利益	273百万円
	(4) 純資産額	9,238百万円
	(5) 総資産額	26,307百万円

6 議決権の所有割合欄の(内書)は間接所有であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成25年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)	
食品	5,243	[2,551]
その他	292	[52]
全社(共通)	177	[14]
合計	5,712	[2,617]

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(定年退職後の再雇用社員を含む)は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

(平成25年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
3,122 [689]	36.2	13.6	6,640,992

セグメントの名称	従業員数(名)	
食品	2,945	[675]
その他	—	[—]
全社(共通)	177	[14]
合計	3,122	[689]

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(定年退職後の再雇用社員を含む)は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当グループには、日本食品関連産業労働組合総連合会に加盟している全森永労働組合等が組織されており、グループ内の組合員数は3,667人であります。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はございません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国の経済は、復興需要等を背景として緩やかな景気回復傾向となり、昨年末からは円高の是正や株価の回復等も見られましたが、海外経済の減速の影響や個人消費の低迷等から依然として不透明な状況で推移しました。

食品業界におきましては、低調なまま推移している個人消費や長引くデフレにより、厳しい環境が続きました。

酪農乳業界におきましては、乳製品向け生乳供給量不足から、酪農の生産基盤安定化を図ることによる増産を目的に、前連結会計年度に引き続いて乳製品向け生乳取引価格が引き上げられました。

このような環境のもとで、当社グループは、引き続きお客さまのニーズに応えた商品の開発・改良に努める一方で、原材料の有利調達および生産の合理化や経費の削減・効率化など、ローコストオペレーションの徹底にも引き続き取り組みました。

これらの結果、当連結会計年度の連結売上高は前年比2.2%増の5,911億9千7百万円となりました。

利益面では、原料やエネルギーの価格上昇、競争激化による販売促進費の増加、商品構成の変化などの影響により、連結営業利益は前年比22.9%減の101億6千6百万円、連結経常利益は前年比20.0%減の105億5千1百万円となりました。連結当期純利益は、前連結会計年度には生産体制効率化のための費用や震災による損失の計上があったため、前年比8.8%増の50億1千6百万円となりました。

セグメントの状況（セグメント間取引消去前）は、次のとおりです。

① 食品事業（市乳、乳製品、アイスクリーム、飲料など）

当連結会計年度の売上高は、5,692億3千7百万円（前年比2.2%増）となり、また、営業利益は153億7千6百万円（前年比17.7%減）となりました。

② その他の事業（飼料、プラント設備の設計施工など）

その他の事業につきましては、売上高は298億2千6百万円（前年比2.4%増）となり、また、営業利益は35億7千7百万円（前年比4.6%増）となりました。

なお、提出会社の管理部門にかかる費用など事業セグメントに配賦していない全社費用が80億8千5百万円あります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度の各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ22億8千6百万円減の210億5千5百万円の収入となりました。これは、法人税等の支払額の減少はありましたが、前連結会計年度は金融機関休業日の影響により預り金の増加額が大きかったこともあり、預り金収支が悪化したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ9億9百万円支出減の△133億1千2百万円となりました。これは、固定資産の売却による収入が増加したことなどによるものです。

これらを合計したフリーキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ13億7千6百万円減の77億4千3百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ39億6千9百万円支出増の△68億5千9百万円となりました。これは、当連結会計年度は借入金の返済や社債の償還が借入総額を上回ったことに加え、自己株式を取得したことなどによるものです。

これらの結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ9億6千8百万円増の173億5百万円となりました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前期比(%)
食品事業	405,657	+4.6
その他の事業	3,320	△6.1
合計	408,978	+4.5

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
食品事業	—	—	—	—
その他の事業	11,382	+26.4	3,037	+14.9
合計	11,382	+26.4	3,037	+14.9

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前期比(%)
食品事業	569,237	+2.2
その他の事業	29,826	+2.4
セグメント間の内部売上高または振替高	△7,866	—
合計	591,197	+2.2

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 主な相手先別の販売実績については、いずれの当該販売実績も、総販売実績に対する割合が100分の10に満たないため、記載しておりません。

3【対処すべき課題】

文中の将来に関する事項は、当有価証券報告書提出日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

1. 経営の基本方針

当社グループは、「乳の優れた力を基に新しい食文化を創出し、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」という経営理念のもと、「お客さまに満足と共感をいただける価値ある商品、サービスを提供する」「変革に努め、独自の価値を創造する」「社員が活き活きと働く企業風土をつくる」「社会から信頼される企業となる」という4つの経営ビジョン実現に向けた取り組みを通じて、社会に優れた価値を提供し貢献してまいります。

2. 中長期的な会社の経営戦略および対処すべき課題

国内の少子高齢化や人口の減少による市場の伸び悩み、お客さまのニーズの多様化や、新興国の経済発展に伴う食料やエネルギー価格の上昇傾向は、中長期的に続くものと考えております。

これらの課題に対処し、次の5つの経営課題に取り組むことで経営と業務の一層の効率化に注力してまいります。具体的には「カテゴリーNo.1商品の育成」「事業の選択と集中」「生産性の抜本的な改革、資本効率の改善」「国際競争力の強化」「企業文化の変革」であります。

また、業務の適正を確保するための内部統制の充実や、お客さまに安全・安心を提供する品質保証体制の一層の強化にも引き続き取り組んでまいります。

3. 会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

(1) 基本方針の内容

当社は、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものであり、株式の大量買付等であっても、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。

しかしながら、株式の大量買付等の中には、その目的などから見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付等の行為について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないものなど、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

とりわけ、当社の企業価値の源泉は、「乳」の優れた力を最大限に活用する商品開発力と、食品の提供を通じて培ってきた信用とブランドにあります。これらが、株式の大量買付等を行う者により中長期的に確保し、向上させられなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになります。

こうした事情に鑑み、当社株式に対する大量買付等が行われた際に、株主のみなさまがかかる大量買付等に応じるべきか否かを判断し、あるいは当社取締役会が株主のみなさまに代替案を提案するために必要な情報や時間を確保したり、株主のみなさまのために交渉を行うことなどを可能とすることで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する大量買付等を抑止するための枠組みが必要であると考えております。

(2) 基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、第87期事業年度に係る当社定時株主総会における株主のみなさまの承認に基づき、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）（以下「旧プラン」といいます。）を更新しております。旧プランの有効期間は、平成25年6月27日開催の当社第90期定時株主総会（以下「本総会」といいます。）の終結の時までとされておりましたが、当社は、本総会において株主のみなさまの承認をいただき、旧プランの内容を一部変更した上、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）を更新いたしました（以下、更新後のプランを「本プラン」といいます。）。

本プランは、当社株式の大量取得行為が行われる場合に、株主のみなさまが適切な判断をするために必要・十分な情報と時間を確保するとともに、買付者等（以下に定義されます。）との交渉の機会を確保することなどにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることを目的としています。

具体的には、当社の株券等に対する買付もしくはこれに類似する行為又はその提案（以下「買付等」といいます。）が行われる場合に、買付等を行う者（以下「買付者等」といいます。）に対し事前の情報提供を求めると、上記の目的を実現するために必要な手続を定めています。

買付者等が本プランにおいて定められた手続に従うことなく買付等を行う場合、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれがある場合などには、当社は、買付者等による権利行使は認められないとの行使条件および当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）を、その時点の当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により割り当てます。

本プランに従って本新株予約権の無償割当てがなされ、その行使又は当社による取得に伴って買付者等以外の株

主のみなさまに当社株式が交付された場合には、買付者等の有する当社の議決権割合は、最大50%まで希釈化される可能性があります。

(3) 本プランの合理性

本プランは、大要下記のとおり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう合理的な内容を備えたものと考えております。

① 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、当社株式に対する買付等がなされた際に、当該買付等に応じるべきか否かを株主のみなさまが判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主のみなさまのために買付者等と交渉を行うことなどを可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されるものです。

② 株主意思を重視するものであること

本プランは、当社株主総会において本プランに係る委任決議がなされることにより更新されました。

また、本プランには、有効期間を約3年間とするいわゆるサンセット条項が付されており、かつ、その有効期間の満了前であっても、当社株主総会において上記の委任決議を撤回する旨の決議が行われた場合、当社の株主総会で選任された取締役により構成される当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなります。その意味で、本プランの存続の適否には、株主のみなさまのご意向が反映されることとなっております。

③ 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

本新株予約権の無償割当ての実施などの運用に際しての実質的な判断は、独立性の高い社外有識者などから構成される独立委員会により行われることとされています。これにより当社取締役会の恣意的行動を厳格に監視いたします。

また、その判断の概要については株主のみなさまに情報開示をすることとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に適うように本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

④ 第三者専門家の意見の取得

買付者等が現れると、独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を受けることができることとされています。これにより、独立委員会による判断の公正さ・客観性がより強く担保される仕組みとなっております。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績および財政状態などに影響をおよぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当有価証券報告書提出日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 酪農乳業界について

- ・当社グループが生産する牛乳・乳製品には、国内農業の保護を目的とした関税制度が設けられておりますが、WTO、TPP、FTA農業交渉の結果いかんによって関税制度に大幅な変更があれば、当社グループの業績および財政状態に大きく影響する可能性があります。
- ・当社グループが生産する乳製品の原料である生乳の生産者に対しては「加工原料乳生産者補給金等暫定措置法」に基づく補給金が支払われており、将来において同法律が大幅に変更もしくは廃止され、補給金の水準が変化する場合は、当社グループの原料購入価格が影響を受ける可能性があります。

(2) 食品の安全について

食品の安全性や品質管理に対する消費者の関心が一層高まっております。大規模な回収や製造物責任賠償につながるような不測の製品事故などの発生は、当社グループの業績および財政状態に重大な影響をおよぼす可能性があります。従いまして、当社グループの製品製造にあたっては、法律よりも厳しい独自の品質管理基準を適用しております。

(3) 相場・為替レートの影響について

当社グループは、一部の原材料および商品を海外から調達していることから、これらの相場や為替レートの変動により購入価格が影響を受けます。相場の高騰および為替レートの円安の進行は、原価の上昇要因となり、当社グループの業績および財政状態に影響をおよぼす可能性があります。

(4) 天候不順について

当社グループのアイスクリーム部門・市乳部門の売上は、天候の影響を受ける可能性があります。特に、冷夏の場合はこれらの部門の売上が減少し、当社グループの業績および財政状態に影響をおよぼす可能性があります。

(5) 天災について

地震などの大規模な自然災害の影響で生産・物流施設等が損害を被ることにより、生産の停滞や復旧のための費用が発生し、業績および財政状態に影響をおよぼす可能性があります。

(6) 情報セキュリティについて

当社グループでは、グループ各社が保有する個人情報の保護・管理ならびに情報システムへの不正アクセスを防止する情報セキュリティの対応策を策定し、取り組んでおります。しかしながら、予期しえない事態により情報の流出等が発生した場合には、社会的信用の低下などによって、当社グループの業績および財政状態に影響をおよぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(提出会社)

1. 当社が技術援助等を受けている契約

契約先	国名	契約品目	契約内容	契約期間
サンキストグローワーズ社	米国	清涼飲料水等	サンキスト商標の使用権の設定	昭和63年4月8日から 平成9年3月31日まで 以後5年ごとの自動更新
KRAFT FOODS GROUP, INC.	米国	チーズ等	技術提携および輸入販売	平成24年10月1日から 平成31年5月21日まで
MONDELEZ INTERNATIONAL, INC.	米国	チーズ等	技術提携および輸入販売	平成24年10月1日から 平成31年6月8日まで
ユニリーバ・ジャパン・ビバレッジ株式会社	日本	紅茶飲料	リプトン商標の使用権の設定	平成17年7月1日から 平成22年12月31日まで 以後3年ごとの自動更新

(注) 上記についてはロイヤリティとして、売上高の一定率を支払っております。

2. 販売契約

契約先	国名	契約品目	契約内容	契約期間
ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社	日本	小売用および業務用のリプトンリーフティー、リキッドティー、パウダーティー等	日本国内における総販売元に関する基本売買契約	平成22年6月1日から 平成25年12月31日まで 以後3年ごとの自動更新

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発部門では、食品総合研究所、栄養科学研究所、食品基盤研究所、装置開発研究所、分析センター、および応用技術センターの4研究所、2センターの体制のもと、「“おいしい”をデザインする」を基本テーマに、「健康に寄与する商品」、「安全で品質の高い商品」、「おいしくて使いやすい商品」、「楽しさや安らぎを提供する商品」をお客さまにお届けするよう研究開発活動を行っております。

食品総合研究所および栄養科学研究所では、関係事業部との連携により、商品開発力と研究開発スピードの向上を目標として各種商品の研究開発を行っております。食品基盤研究所では、ビフィズス菌、ラクトフェリン、乳ペプチド、アロエベラといった健康関連素材や食品の機能研究をはじめ、各商品分野で求められるおいしさの追求に関する基盤研究など、差別化につながる新技術や当社グループが将来必要とする中長期的テーマの育成を基本方針としております。装置開発研究所では、製造プロセスや機器類の開発・改良を担当し、分析センターでは、商品の安全性と品質向上のための分析技術の研究に取り組んでおります。また、応用技術センターでは、当社製品や乳素材のお客さまにとっての価値を高めることを目的に、レシピの開発と製商品の評価を行っております。

当連結会計年度における当社グループの研究開発費の総額は4,915百万円であり、セグメント別には、次のとおりであります。

食品	4,901	百万円
その他	13	〃
計	4,915	〃

各事業分野別の主な新製品開発、製品改良事項は以下の通りです。

牛乳・乳製品および一般食品を中心とする食品分野では、お客さまニーズの反映と新たな市場開拓を実現できる新技術開発を積極的に進めたほか、従来の技術に新しい製造加工技術を付加し、「おいしさ」、「楽しさ」、「健康」、「栄養」、「環境」に配慮した商品を上市してまいりました。主な新商品、新技術は以下のとおりです。

飲料では、チルドカップコーヒーのトップブランド「Mt. RAINIER（マウントレーニア） Double」シリーズに「Double エスプレッソ」「Double カフェラテ」を開発し、新たにラインアップに加えました。コーヒー豆は、環境に配慮した国際的な非営利団体『レインフォレスト・アライアンス』の認証を受けているブラジルの名門「ダテラ農園」と開発したオリジナルブレンドのコーヒー豆を100%使用し、さらに、独自の『ダブルエスプレッソ製法』による香り高くコク深いエスプレッソを使用しています。また、「リプトン」ブランドの紅茶飲料では、“紅茶”という枠組みを越えて、「リプトン 抹茶ミルク」を開発し、500ml容器で発売しました。さらに、チルドカップ容器入りの紅茶ラテ「リプトンEXTRA SHOT 濃厚紅茶ラテ」と「リプトンEXTRA SHOT クリーム紅茶ラテ」を発売しました。

デザートでは、「体脂肪計タニタの社員食堂」が100万部を超えるベストセラーとなった株式会社タニタと共同し、100kcalと通常よりカロリーを3～5割抑えながらも『美味しさ』と『満足感』を実現したプリンシリーズ製品として、「ミルクプリン」「かぼちゃプリン」「チーズプリン」を開発し新発売しました。味覚調査と食べる動作を再現する機器を使った物性測定でクリームのような食感を科学的に分析し、独自の原料配合で、2秒でとろけるくちどけのよさと、口の中に広がる濃厚さを感じる食感を作り上げ、「2秒のくちどけ 濃厚カスタード」「2秒のくちどけ 濃厚キャラメル」を発売しました。また、濃厚なカスタードの味わいに、まるでプリンを泡立てたような独特の“泡どけ食感”をプラスした新感覚のプリン「森永ふわだてプリン」を発売しました。

ヨーグルト分野では、日本初の国産ギリシャヨーグルトとして開発した「濃密ギリシャヨーグルト PARTHENON（パルテノ）」が、日本食糧新聞社より「第26回新技術・食品開発賞」を受賞しました。また、従来の「はちみつ付」に加え、「プレーン」「ラズベリーソース付」を新たに追加し、計3種類にラインアップしました。定番のアロエのシリーズからは従来品に比べアロエ葉肉使用量が約1.5倍の「森永 粒たっぷりアロエ&ヨーグルト」、フルーツとのミックスバラエティー「森永アロエヨーグルト マスカット」「森永アロエヨーグルト キウイ」を発売しました。10種類のフルーツを一度に摂れる健康アシストヨーグルト「これでフルーツ10種類ヨーグルト ベリーミックス」、すっかり売り場で定着した4ポットヨーグルトにおいては「森永ビヒダスヨーグルト 脂肪0 4ポット ピーチミックス+パイン」「森永ビヒダス ナタデココヨーグルト4ポット 2種のアソート」を発売しました。

冷凍では、定番のパルムから「PARM（パルム） ロイヤルミルクティー」「PARM（パルム） ホワイトリッチミルク」を発売しました。ロイヤルミルクティーではアッサムとケニアの2種類の茶葉を独自の割合でブレンドした紅茶アイスクリームを、口どけにこだわったホワイトチョコでコーティングしており、濃厚でコクのあるロイヤルミルクティーのような味わいを堪能していただけます。ホワイトリッチミルクは、クリームとマスカルポーネを使用した、きめが細かく、“濃厚なミルク感”のあるバニラアイスクリームを、溶ける温度にこだわったホワイトチョコで包みました。「PARM（パルム） ピュレコーティング オレンジ&バニラ」は、果肉や果汁でコーティングする新しいコンセプトを持つ製品です。「PARM（パルム）」ならではのしっとりなめらかなバニラアイス、噛みだしがやわらかでオレンジ果肉とオレンジピールを含む果汁で包んでいます。MOWシリーズからは「MOW（モ

ウ) 黒ぶどう」と「MOW (モウ) カプチーノ」を発売しました。黒ぶどうはコンコード種ぶどう果汁を22%使用し、ぶどう本来の濃厚な風味とミルクの風味をバランス良く仕上げました。カプチーノは本場であるイタリアの製法を参考にし、ダークロースト(極深煎り)した3種類のアラビカ種豆をエスプレッソ抽出したエキスを使用しました。こだわりのコーヒーアイスとミルクバニラアイスが混ざり合った、本格的なカプチーノアイスの味わいを楽しむことができます。ロングセラー商品のpinoからは「pino (ピノ) ロイヤルカフェラテ」「pino (ピノ) ストロベリーチョコ&ミルクチョコ」を発売しました。ロイヤルカフェラテは、ミルクリッチなカフェラテアイスクリームをマイルドな甘さのミルクチョコで包んだちょっとリッチな味わいです。ストロベリーチョコ&ミルクチョコは、「身近な人にチョコっと言葉をそえてチョコアイスを贈ろう!」という習慣を「チョコ言葉」をキーワードに展開した製品のひとつです。

チーズでは、新たなチーズ活用法の提案、喫食シーン拡大による新規需要創出による市場活性化をテーマにした開発を行っています。その一環として、夕食でのチーズの使用量が最も増えているとの調査結果を踏まえ、“チーズ=朝食”という従来の食シーンに加え、今後ますます夕食でのご利用シーンに応えるために、毎日のお料理を簡単にピストロ風のアレンジできる「クラフト おうちBISTROとろ〜りモッツァレラチーズ」「クラフト おうちBISTROこんがり焼き目がつくチーズ」「クラフト おうちBISTRO2色の彩りチーズ」を発売しました。さらに“とろ〜りチーズ”と“あつあつごはん”の意外な組み合わせが楽しめる「クラフト チーズでごはん!？」を発売しました。

環境や社会に配慮した容器包装開発にも力を注いでいます。具体的には、ビヒダスヨーグルト等の樹脂カップおよびキャップの軽量化、飲料パック、紙カップ、チーズ用フィルム等の薄肉化、軽量化および各種製品の外装ダンボールの原紙坪量軽減等に取り組み、資源の有効活用、廃棄物削減を積極的に推進しました。

育児用ミルクの分野では日本初の「入れかえタイプ」の新包装形態を開発し、省資源化とともに利便性が向上しました。

栄養食品分野では、ママの声から生まれた「エコ」で「らく」な、「エコらくパック」で森永ドライミルク「はぐくみ」、森永ペプチドミルク「E赤ちゃん」、森永フォローアップミルク「チルミルク」の3種類を同時発売しました。エコで環境にやさしく、買い物、ミルク作り、ゴミ捨てを楽にし、子育て中のママの笑顔を支えます。

インドネシアにおいても、食物アレルギーが増えていることから、海外での乳幼児用調製粉乳について、大豆乳「Soya」シリーズ4品、森永ペプチドミルク「E赤ちゃん」と同程度の軽度たんぱく質分解乳「P-HP」シリーズ3品を発売しました。中国では、調製粉乳(3品)を新発売し、引き続き高付加価値の育児用ミルクの開発・展開を行っております。

臨床栄養食品、医療食分野では、弊社独自の無菌充填機のMOAS (Morinaga Original Aseptic System) により医療現場での需要性の高い低濃度タイプ医療食「MA-8プラス0.6アセブバッグ」および「MA-8プラス0.8アセブバッグ」を販売し「アセブバッグ」製品を拡大しています。さらに、水分量とナトリウム量に配慮し、さらに衛生的かつ簡便にお取り扱いできるように新開発されたデイズポーザブル容器入り半固形高栄養流動食「アクトエールアクア」2品種、125mlの少量飲みきりで栄養補給にぴったりの「エンジョイclimateal」6品種(プレーン、いちご味、コーヒー味、あずき味、バナナ味、コーンスープ味)を発売し、さまざまな需要に対応しています。

医療食の中でも成長率が高い栄養補給ゼリーでは、当社独自の乳酸菌MoLacを配合した「エンジョイカラーゲンゼリー」(ピーチ味)、ご家庭でもご利用しやすい小容量の嚥下りハビリ食シリーズ「エンジョイゼリー ハーフサイズ」3品種(プレーン、いちご、コーヒー)を発売しました。

栄養補助食品としては、手軽においしく栄養補給ができる「Sunkistポチプラス」シリーズとして、ビタミン・微量元素強化、野菜汁・果汁入りプレミアムタイプの「SunkistポチプラスV」2品種(レッドミックス、グリーンミックス)、すっきりした味わいで、おいしく栄養補給できるクラッシュタイプのゼリー飲料「ポチプラスのむゼリー」2品種(アップル&キャロット、グレープ&ブルーベリー)を品揃えし、さまざまなシーンでご利用いただけるようになりました。

また、介護食では、新しい分野として、「やわらか亭」4品種(梅ごはん、海苔ごはん、カレーごはん、麻婆ごはん)を発売しました。「やわらか亭」は、国産米をやわらかく炊き上げたおいしいごはん、ごはんにかけるソースのセットで、「おいしさ」、「やわらかさ」、「たべやすさ」に加え、普段の食事や柔らかい食事でも不足しがちな栄養にもこだわり、家庭での食事をサポートする食品として開発しました。さらに、食品と一緒にミキサーにかけるだけでさまざまな食品を常温でもプルッ、ふわっとまとめることができる固形化補助粉末「まとめるこeasy」を開発し、要介護のお客さまにとってより安心して食べやすい食事を提供しています。

その他の事業分野では、微酸性電解水製造装置「ピュアスター」の海外への事業拡大のため、小型機のCEマーキング(EU認定のマーク)を取得しました。小型機Mp-300CEは、2012年6月に開催されました国際食品工業展に出展し、同年10月に森永エンジニアリング株式会社から発売しました。また、新たに微酸性電解水関連特許7件が特許登録され、競合他社に対する技術的優位性を確保しています。

基礎研究分野では、近年増加が問題となっている小児肥満や妊婦・授乳婦の栄養研究、高齢者における病態栄養などの研究を進めるとともに、ビフィズス菌、ラクトフェリン、乳ペプチド、アロエベラなどの独自素材による、感染防御、アレルギー、血糖値上昇抑制、血圧降下、メタボリックシンドローム予防、美容などの機能性研究を進めており、医療機関と共同で臨床応用研究を推進しております。

栄養素・食品成分の果たす役割の解明を目的として、東京医科歯科大学小川佳宏教授との共同研究において、胎児期から乳児期の栄養による遺伝子調節機構の研究に取り組み、マウスを用いた研究において、肝臓の脂肪合成に重要な遺伝子が栄養環境に応じて調節されることを初めて見出しました。この成果を米学術誌「Diabetes」に報告し、2012年10月に開催された第33回日本肥満学会にて発表しました。なお、この研究により担当研究員が日本肥満学会若手研究奨励賞（YIA）を受賞しました。

当社は乳由来たんぱく質であるラクトフェリンに関する研究報告を1963年に初めて発表してから、2013年で50年目を迎えました。ラクトフェリンは、人などの哺乳類の乳汁や唾液などに含まれるたんぱく質で、抗菌・抗ウイルス活性や免疫調節作用などさまざまな生理機能を示すことが知られていますが、昨年冬のノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の患者数の増加に合わせ、ラクトフェリン摂取によるノロウイルスを含むウイルス感染性胃腸炎に対する臨床試験結果およびそのメカニズム解明に関する基礎研究結果をまとめ、考察し、その内容を発表しました（2013年1月）。

また、同2月には、国際酪農連盟日本国内委員会（JIDF）における貢献活動およびラクトフェリンに関する一連の研究による「乳」の価値向上について評価され、当社社員が「平成24年度JIDF光岡賞」を受賞しました。

健康なヒトの腸管より発見され、森永乳業が長年にわたって研究を行っているビフィズス菌 *Bifidobacterium longum* BB536（ビフィドバクテリウム・ロンガムBB536）は、ヒト由来のビフィズス菌として、また生きたまま腸に届きやすいという特徴を持ち、整腸や感染防御、免疫調節など多くの機能をもつビフィズス菌ですが、元々は腸内に生息し、酸や酸素に弱いという性質をもつ偏性嫌気性菌のビフィズス菌をヨーグルトの中で生存・維持させるためには多くの課題がありました。特に、酸や酸素の影響をより強く受けるフルーツ入りタイプやドリンクタイプのヨーグルトでは、生きたままのビフィズス菌数を賞味期限まで維持することが難しいとされてきました。そこで、これら課題の解決に向けての可能性を探求したところ、乳酸菌 *Lactococcus lactis*（ラクトコッカス・ラクティス）との混合発酵により、ビフィズス菌ビフィドバクテリウム・ロンガムBB536の発酵乳中での増殖と保存生残性が著しく向上することを発見しました。また、ビフィズス菌の増殖促進および保存性改善のメカニズムの解明にも取り組み、この成果を国際学術誌に複数の論文を発表しました。本技術は2007年から製品応用を開始し、ビフィズス菌 BB536を配合した「森永ビヒダスヨーグルト4ポット」シリーズをはじめ、現在当社で販売しているさまざまなタイプのビフィズス菌入りヨーグルト製品に応用しています。なお、この「高菌数、高生残性ビフィズス菌含有ヨーグルト製造方法の技術開発」に関して、日本農芸化学会より「2013年度農芸化学技術賞」を受賞しました（2013年3月）。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。なお、連結財務諸表の作成にあたっては、主として期末日現在などの判断に基づき金額を見積った項目があります。

特に以下の項目に関する見積額は、実際の結果と異なる可能性があります。

①貸倒引当金

貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しておりますが、今後の個別の業況などによっては、追加引当もしくは取崩しが必要となる可能性があります。

②退職給付費用および債務

退職給付費用および退職給付債務は、割引率など数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率に基づいて算出されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、その影響額は累積され、将来にわたって規則的に認識されるため、将来期間において認識される費用および計上される債務に影響を及ぼす可能性があります。

③投資有価証券の減損

投資有価証券については、その価値の下落が一時的ではなく回復可能性が無いと認められる場合に減損処理を実施しておりますが、今後の市況や投資先の業況などにより、さらに減損処理が必要となる可能性や価格が回復する可能性があります。

(2) 財政状態

①貸借対照表の状況

当連結会計年度末の資産の部は、設備投資が減価償却費の範囲内となったことや、生産中止を予定している工場設備の減損損失の計上などにより有形固定資産は減少しましたが、「商品及び製品」が原料乳製品のひっ迫状態の緩和傾向に伴い増加したことから、前連結会計年度末に比べ23億8百万円増の3,684億9千8百万円となりました。

負債の部は、社債の償還により借入金及び社債の総額が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ5億6百万円減の2,517億4千8百万円となりました。

純資産の部は、「利益剰余金」の増加や上場有価証券の時価上昇に伴う「その他有価証券評価差額金」の増加により、前連結会計年度末に比べ28億1千4百万円増の1,167億5千万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の30.8%から31.4%に、1株当たり純資産額は前連結会計年度末の449.35円から469.07円になりました。

②財務政策

当社グループは、運転資金および設備投資資金の調達に際しては、内部資金を基本としながら、金融機関からの借入、コマーシャル・ペーパーの発行、社債の発行などの外部からの資金も利用しております。外部からの資金調達につきましては、安定的かつ低利を前提としながら、将来の金融情勢の変化等も勘案してバランスのとれた調達を実施しております。なお、当社（提出会社）は機動的な資金調達および当社グループ全体の資金効率アップのため、金融機関14行と総額300億円のコミットメントライン契約を締結しております。

③キャッシュフローの状況

当連結会計年度の各キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要

(2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

なお、キャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりです。

	平成21年 3月期	平成22年 3月期	平成23年 3月期	平成24年 3月期	平成25年 3月期
自己資本比率 (%)	27.5	28.4	31.3	30.8	31.4
時価ベースの自己資本比率 (%)	21.4	25.8	21.4	22.2	19.2
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (倍)	3.9	4.4	3.7	5.0	5.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	17.9	17.3	16.1	13.4	12.8

自己資本比率：(純資産－新株予約権－少数株主持分)／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※ 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

- ※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数により算出しております。
- ※ 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 経営成績

当連結会計年度の売上高は、前年比2.2%増の5,911億9千7百万円となりました。当社（提出会社）の売上高は、前年比2.0%増の4,462億1千8百万円であり、その概況は以下の通りです。

市乳

牛乳類は、「森永のおいしい牛乳」が前年を上回りましたが、牛乳類全体では前年の売上を下回りました。

乳飲料等は、「マウントレニア カフェラッテ」シリーズが前年を上回ったことや新商品の「リプトン抹茶ミルク」が大きく寄与したことから、全体でも前年の売上を上回りました。

ヨーグルトは、「アロエヨーグルト」や「ビヒダスヨーグルト」シリーズが前年を上回ったことから、全体でも前年の売上を大きく上回りました。

プリン等は、「濃いリッチプリン」や「森永の焼プリン」が前年を上回ったことから、全体でも前年の売上を上回りました。

これらにより、市乳の売上高は2,070億2千5百万円（前年比3.4%増）となりました。

乳製品

粉乳は、「森永ドライミルクはぐくみ」や「クリープ」が前年を下回ったことから、全体でも前年の売上を下回りました。

バターは、家庭用、業務用ともに前年を上回りました。

チーズは、クラフトブランドの「モツァレラチーズ」が前年を上回りましたが、「スライスチーズ」や「6Pチーズ」が前年を下回ったことから、全体でも前年の売上を下回りました。

これらにより、乳製品の売上高は922億9千2百万円（前年比2.2%減）となりました。

アイスクリーム

アイスクリームは、「MOW（モウ）」や「ピノ」が前年を下回りましたが、「PARM（パルム）」が大きく前年を上回ったことから、全体でも前年の売上を上回りました。

これらにより、アイスクリームの売上高は512億2千4百万円（前年比1.3%増）となりました。

その他

「リプトンフルーツティー」が前年を下回りましたが、流動食などが前年を上回りました。

これらにより、その他の売上高は956億7千6百万円（前年比3.6%増）となりました。

当連結会計年度の利益面では、原料やエネルギーの価格上昇、競争激化による販売促進費の増加、商品構成の変化などの影響により、連結営業利益は前年比22.9%減の101億6千6百万円、連結経常利益は前年比20.0%減の105億5千1百万円となりました。連結当期純利益は、前年には生産体制効率化のための費用や震災による損失の計上があったため、前年比8.8%増の50億1千6百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、当連結会計年度は、主として生産設備の新設、更新および合理化と販売体制の強化を目的として総額161億円（有形固定資産）の設備投資を実施いたしました。セグメント別の内訳は次のとおりであります。

食品事業	14,959百万円
その他事業	688 〃
計	<u>15,648 〃</u>
消去又は全社	<u>493 〃</u>
合計	<u>16,141 〃</u>

このうち提出会社（当社）では、総額126億円（消去前）（有形固定資産）の設備投資を実施しております。内容といたしましては、食品事業を主としており、主に次のとおりであります。

神戸工場	ヨーグルト設備および保管倉庫増強他
利根工場	デザート・業務用製品設備増強他
盛岡工場	流動食設備増強他
支社・支店	販売および物流設備増強他

食品事業における、連結子会社の設備投資としては、主に次のとおりであります。

エムケーチーズ(株)	チーズ設備増強他
横浜乳業(株)	ヨーグルト設備増強他
北海道保証牛乳(株)	市乳設備増強他

その他事業においては、エム・エム・プロパティ・ファンディング(株)における賃貸不動産の改修工事などを実施いたしました。

2【主要な設備の状況】

グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	工具器具 備品	リース 資産		合計
生産設備									
神戸工場 (兵庫県 神戸市灘区)	食品事業	乳飲料・ヨーグルト・流動食製造設備	13,457	10,942	1,437 (16,424)	114	7	25,959	117 [1]
東京多摩工場 (東京都 東大和市)	食品事業	市乳・飲料・デザート製造設備	4,142	4,491	13,488 (106,385)	50	173	22,346	231 [17]
利根工場 (茨城県常総市)	食品事業	デザート製造設備	2,983	4,855	1,637 (226,435)	30	25	9,531	187 [85]
別海工場 (北海道 野付郡別海町)	食品事業	乳製品製造設備	3,471	5,358	34 (111,752)	30	—	8,893	105 [29]
近畿工場 (兵庫県西宮市)	食品事業	市乳・飲料・乳製品製造設備	1,630	1,738	3,752 (53,736)	75	—	7,196	118 [24]
中京工場 (愛知県江南市)	食品事業	市乳・飲料・アイスクリーム製造設備	2,244	2,810	1,653 (76,452)	20	33	6,762	177 [231]
東京工場 (東京都葛飾区)	食品事業	市乳・飲料・デザート製造設備	1,980	3,544	154 (66,883)	53	4	5,737	144 [49]
その他生産設備 9工場 北海道地区3 東北地区2 関東地区2 甲信越、東海 地区2	食品事業 その他事業	市乳・飲料・乳製品・アイスクリーム・乳加工品製造設備	6,564	9,099	1,534 (325,973)	121	194	17,514	354 [151]
その他の設備									
本社・その他 (東京都港区、 目黒区、神奈川 県座間市・他)	食品事業 その他事業	研究所建物・その他土地	5,238	104	9,995 (964,624)	467	1,370	17,177	898 [49]
支社・支店・センター 東京支社 (東京都港区) 他全国8支店 (東北、関東、東海、北陸、関西、中国、四国、九州)・関東および関西地区4センター	食品事業	販売・物流機器ほか	2,538	183	7,389 (141,764)	1,124	1,186	12,423	791 [53]
合計	—	—	44,251	43,127	41,078 (2,090,432)	2,088	2,997	133,543	3,122 [689]

(注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定は含まれておりません。

2 神戸工場は神戸市より土地138,375㎡を賃借しております。

3 その他の設備の「本社・その他」および「支社・支店・センター」に記載している土地の主なものは、次の

とおりであります。

区分	面積(㎡)	金額(百万円)	区分	面積(㎡)	金額(百万円)
「本社・その他」			「支社・支店・センター」		
栃木県那須郡那須町	638,419	138	中国支店 (岡山県岡山市他)	30,070	992
宮城県仙台市 宮城野区	39,358	1,372	東京支社 (千葉県船橋市他)	28,912	1,607
宮崎県宮崎市	38,626	737	東海支店 (愛知県江南市他)	24,481	2,057
徳島県名西郡石井町	34,224	640	九州支店 (熊本県熊本市他)	24,333	1,054
福島県郡山市	28,263	78	四国支店 (香川県高松市他)	12,579	766

4 上記の他、一部建物等について連結会社以外の者から賃借しております。(13千㎡、581百万円/年)

5 上記の他、主な賃貸およびリース設備は、次のとおりであります。

区分 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	契約期間	年間リース料 (百万円)
生産設備 (各生産工場)	食品事業	市乳・飲料製造設備他	主として5年	258
その他の設備 (各事業所)	食品事業	大型コンピュータ 中小型コンピュータお よび パーソナルコンピ ュータ	4～5年	130

6 従業員数の〔 〕は、臨時従業員数を外書しております。

7 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

会社名 事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	工具器具 備品	リース 資産	合計	
エム・エム・プロ パティ・ファンデ ィング㈱ (賃貸ビル) (東京都港区)	その他事 業	賃貸ビル	3,556	4	20,009 (6,137)	4	—	23,574	— [—]
富士乳業㈱ 本社工場 (静岡県駿東郡 長泉町)	食品事業	アイスクリー ム製造設備	1,854	3,660	534 (17,424)	40	15	6,105	92 [108]
エムケーチーズ㈱ 本社工場 (神奈川県綾瀬市)	食品事業	チーズ・デザ ート製造設備	1,707	2,146	453 (48,552)	33	62	4,402	163 [—]
東北森永乳業㈱ 仙台工場 他1工 場 (宮城県仙台市宮 城野区他)	食品事業	市乳・飲料製 造設備	2,067	1,371	417 (45,403)	25	6	3,889	120 [44]
横浜乳業㈱ 本社工場 (神奈川県綾瀬市)	食品事業	市乳・飲料・ デザート製造 設備	1,176	1,559	1,060 (34,678)	70	—	3,867	135 [9]
沖縄森永乳業㈱ 本社工場 (沖縄県中頭郡 西原町)	食品事業	市乳・飲料製 造設備	1,928	1,197	520 (14,933)	14	155	3,816	78 [8]
㈱デイリーフーズ 東京本社 (東京都港区) 他全国8支店 (東北、新潟、東 海、北陸、大阪、 中国、四国、九 州)・1センター (九州)	食品事業	販売物流機器 ほか	971	55	1,808 (45,087)	66	82	2,986	335 [28]
熊本乳業㈱ 本社工場 (熊本県熊本市)	食品事業	市乳・飲料・ 練乳製造設備	648	1,381	850 (40,342)	14	57	2,952	100 [47]
清水乳業㈱ 本社工場 (静岡県静岡市 清水区)	食品事業	市乳・飲料・ デザート製造 設備	236	524	1,646 (14,364)	10	0	2,418	72 [6]
㈱シェフオーレ 本社工場 (千葉県八千代市)	食品事業	デザート製造 設備	1,489	40	640 (16,583)	9	175	2,355	46 [240]
東洋乳業㈱ 本社工場 (広島市安佐北区)	食品事業	市乳・飲料・ デザート・ア イスクリーム 製造設備	802	804	668 (45,458)	25	43	2,343	74 [21]
森永北陸乳業㈱ 富山工場 他1工 場 (富山県富山市他)	食品事業	市乳・飲料・ アイスクリー ム製造設備	699	1,203	199 (40,214)	16	0	2,118	110 [31]
㈱リザンコーポレ ーション(賃貸ビ ル) (東京都港区)	その他事 業	賃貸ビル	1,961	21	— (—)	11	—	1,994	— [—]

(注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定は含まれておりません。

2 上記の他、主な賃貸およびリース設備は、次のとおりであります。

区分 (所在)	セグメントの名称	設備の内容	契約期間	年間リース料 (百万円)
生産設備 (生産会社工場)	食品事業	飲料・デザート製造設備	5～9年	9

3 従業員数の〔 〕は、臨時従業員数を外書しております。

4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 在外子会社

会社名 事業所名 (所在地)	セグメント の 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	工具器具 備品	リース 資産	合計	
ミライGMBH. 本社工場他1事 務所 (ドイツ ロイ トキルヒ市)	食品事業	原料乳製品 製造設備	1,143	2,283	142 (174,235)	144	—	3,712	193 〔—〕

(注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定は含まれておりません。

2 上記の他、主な賃貸およびリース設備は、次のとおりであります。

区分 (所在)	セグメントの名称	設備の内容	契約期間	年間リース料 (百万円)
生産設備 (ドイツ ロイト キルヒ市)	食品事業	原料乳製品製造設備	2～6年	158

3 従業員数の〔 〕は、臨時従業員数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当連結会計年度末現在における設備の新設、拡充、改修等の計画のうち、重要なものは次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	資金調達 方法	投資予定金額		着手及び完了予定年月	
					総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着手	完了
当社 東京多摩工場	東京都 東大和 市	食品事業	市乳製造設備	自己資金 借入金等	830	—	平成25年 3月	平成25年 9月
森永北陸乳業(株)	福井県 福井市	食品事業	菌末製造設備	借入金等	1,800	—	平成25年 10月	平成26年 10月

(注) 上記金額には、消費税を含んでおりません。

(2) 重要な設備の除却等

当連結会計年度末現在において、該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	720,000,000
計	720,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月28日)	上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	253,977,218	253,977,218	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式で あり、単元株式数は1,000株 であります。
計	253,977,218	253,977,218	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

- ① 旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権は次のとおりであります。
平成17年6月29日定時株主総会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	47	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	47,000	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株あたり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成17年7月28日 至 平成37年6月29日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>2 行使可能期間にかかわらず、新株予約権者は以下の(1)(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 平成36年6月29日に至るまで新株予約権者が権利行使開始日を迎えなかった場合 平成36年6月30日から平成37年6月29日まで</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案が当社株主総会で承認された場合、または当社が完全子会社となる株式交換契約書承認の議案もしくは株式移転の議案につき当社株主総会で承認された場合 当該議案承認日の翌日から15日間</p> <p>3 各新株予約権1個当たりの一部行使はできないものとする。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

② 会社法第238条第1項および第238条第2項ならびに第240条第1項の規定に基づく新株予約権
平成18年7月27日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	47	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	47,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成18年8月12日 至 平成38年8月11日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 357 資本組入額 179 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による募集新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1. 募集新株予約権の目的である株式の種類および数

募集新株予約権の目的である株式の種類は普通株式とし、各募集新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整し、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

上記のほか、割当日後、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合理的な範囲で付与株式数を調整する。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各募集新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2. 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第40条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3. その他の募集新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した時に限り、募集新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。

- (2) 上記(1)に拘わらず、新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、以下の①または②に定める場合（ただし、②については、（注）4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り募集新株予約権を行使できるものとする。
- ①新株予約権者が平成37年8月11日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成37年8月12日から平成38年8月11日
- ②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、または当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議の決定がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。
4. 組織再編における募集新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合においては、組織再編行為の効力発生の直前の時点において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
残存新株予約権の新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、（注）1に準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項
（注）2に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得条項
（注）5に準じて決定する。
- (9) その他の新株予約権の行使の条件
（注）3に準じて決定する。
5. 募集新株予約権の取得条項
以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議の決定がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で募集新株予約権を取得することができる。
- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
(2) 当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案
(3) 当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案

平成19年7月27日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	95	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	95,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自平成19年8月14日 至平成39年8月13日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 391 資本組入額 196 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による募集新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 募集新株予約権の目的である株式の種類および数

募集新株予約権の目的である株式の種類は普通株式とし、各募集新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以後、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以後、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各募集新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第40条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3 その他の募集新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。

(2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の①または②に定める場合(ただし、②については、(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り募集新株予約権を行使できるものとする。

- ①新株予約権者が平成38年8月13日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成38年8月14日から平成39年8月13日
- ②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。
- 4 組織再編における募集新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、（注）1に準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項
（注）2に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得条項
（注）5に準じて決定する。
- (9) その他の新株予約権の行使の条件
（注）3に準じて決定する。
- 5 募集新株予約権の取得条項
以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で募集新株予約権を取得することができる。
- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
(2) 当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案
(3) 当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

平成20年7月10日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	95	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	95,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成20年8月13日 至 平成40年8月12日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場 合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 247 資本組入額 124 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による募集新株予約権の取得については、当社取締 役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 募集新株予約権の目的である株式の種類および数

募集新株予約権の目的である株式の種類は普通株式とし、各募集新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以後、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以後、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各募集新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第40条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3 その他の募集新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができるものとする。

(2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の①または②に定める場合(ただし、②については、(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り募集新株予約権を行使できるものとする。

①新株予約権者が平成39年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合

平成39年8月13日から平成40年8月12日

- ②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間

- (3) 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。

4 組織再編における募集新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、（注）1に準じて決定する。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

（注）2に準じて決定する。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) 新株予約権の取得条項

（注）5に準じて決定する。

(9) その他の新株予約権の行使の条件

（注）3に準じて決定する。

5 募集新株予約権の取得条項

以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で募集新株予約権を取得することができる。

(1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

(2) 当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案

(3) 当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

平成21年7月10日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	107	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	107,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自平成21年8月13日 至平成41年8月12日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場 合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 324 資本組入額 162 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による募集新株予約権の取得については、当社取締 役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 募集新株予約権の目的である株式の種類および数

募集新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各募集新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割} \cdot \text{株式併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以後、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以後、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各募集新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3 その他の募集新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができるものとする。

(2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の①または②に定める場合(ただし、②については、(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り募集新株予約権を行使できるものとする。

①新株予約権者が平成40年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合

平成40年8月13日から平成41年8月12日

- ②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）当該承認日の翌日から15日間

- (3) 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、当該募集新株予約権を行使することができないものとする。

4 組織再編における募集新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、（注）1に準じて決定する。

- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

- (5) 新株予約権を行使することができる期間

「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

（注）2に準じて決定する。

- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

- (8) 新株予約権の取得条項

（注）5に準じて決定する。

- (9) その他の新株予約権の行使の条件

（注）3に準じて決定する。

5 募集新株予約権の取得条項

以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で募集新株予約権を取得することができる。

- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

- (2) 当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案

- (3) 当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

平成22年 7月12日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年 3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年 5月31日)
新株予約権の数 (個)	107	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	107,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成22年 8月13日 至 平成42年 8月12日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 268 資本組入額 134 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 新株予約権の目的である株式の種類および数

新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数（以下、「付与株式数」という。）は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割} \cdot \text{株式併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日（基準日を定めないときは、その効力発生日）以後、株式併合の場合は、その効力発生日以後、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以後、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者（以下、「新株予約権者」という。）に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3 その他の新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、新株予約権を行使することができるものとする。

(2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の①または②に定める場合（ただし、②については、(注) 4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれ

に定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。

①新株予約権者が平成41年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合

平成41年8月13日から平成42年8月12日

②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）当該承認日の翌日から15日間

(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができないものとする。

4 組織再編における新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、(注) 1 に準じて決定する。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(注) 2 に準じて決定する。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) 新株予約権の取得条項

(注) 5 に準じて決定する。

(9) その他の新株予約権の行使の条件

(注) 3 に準じて決定する。

5 新株予約権の取得条項

以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

(1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

(2) 当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案

(3) 当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

平成23年7月11日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	115	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	115,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成23年8月13日 至 平成43年8月12日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 271 資本組入額 136 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 新株予約権の目的である株式の種類および数

新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割・株式併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以後、株式併合の場合は、その効力発生日以後、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以後、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3 その他の新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、新株予約権を行使することができる。

(2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の①または②に定める場合(ただし、②については、(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。

①新株予約権者が平成42年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成42年8月13日から平成43年8月12日

②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間

(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができないものとする。

4 組織再編における新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、（注）1に準じて決定する。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

（注）2に準じて決定する。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) 新株予約権の取得条項

（注）5に準じて決定する。

(9) その他の新株予約権の行使の条件

（注）3に準じて決定する。

5 新株予約権の取得条項

以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

(1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

(2) 当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案

(3) 当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

平成24年7月11日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	115	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	115,000 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成24年8月14日 至 平成44年8月13日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 223 資本組入額 112 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 新株予約権の目的である株式の種類および数

新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割・株式併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以後、株式併合の場合は、その効力発生日以後、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以後、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に通知または公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知または公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知または公告するものとする。

2 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3 その他の新株予約権の行使の条件

(1) 新株予約権者は、「新株予約権の行使期間」の期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、新株予約権を行使することができる。

(2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の①または②に定める場合(ただし、②については、(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。

①新株予約権者が平成43年8月13日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成43年8月14日から平成44年8月13日

②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間

(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができないものとする。

4 組織再編における新株予約権の消滅および再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、（注）1に準じて決定する。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

（注）2に準じて決定する。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) 新株予約権の取得条項

（注）5に準じて決定する。

(9) その他の新株予約権の行使の条件

（注）3に準じて決定する。

5 新株予約権の取得条項

以下の(1)、(2)または(3)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

(1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

(2) 当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案

(3) 当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成8年4月1日～ 平成9年3月31日(注)1	2,008	253,977,218	0	21,704	0	19,442
平成17年4月1日～ 平成18年3月31日(注)2	—	253,977,218	—	21,704	35	19,478

(注) 1 転換社債の転換による増加であります。

2 エスキモージャパン(株)を平成17年7月1日を合併期日として簡易合併の手続きにより当社に吸収合併したことによる増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	2	69	37	192	169	5	25,303	25,777	—
所有株式数 (単元)	6	108,309	1,712	41,049	28,567	11	71,989	251,643	2,334,218
所有株式数 の割合(%)	0.00	43.04	0.68	16.31	11.36	0.00	28.61	100	—

(注) 自己株式7,024,892株は「個人その他」に7,024単元、「単元未満株式の状況」に892株含めて記載しております。なお、自己株式7,024,892株は株主名簿上の株式数であり、平成25年3月31日現在の実質保有株式数は7,022,892株であります。

また、上記「その他の法人」の中には、証券保管振替機構名義の株式が、8単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
森永製菓株式会社	東京都港区芝5丁目33-1	26,248	10.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	13,719	5.40
株式会社みずほ銀行 常任代理人 資産管理サービス信託 銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオ フィスタワーZ棟	12,228	4.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	8,828	3.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	8,818	3.47
森永乳業株式会社	東京都港区芝5丁目33-1	7,022	2.77
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号	6,942	2.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会 社三井住友銀行退職給付信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	6,644	2.62
森永乳業従業員持株会	東京都港区芝5丁目33-1	5,129	2.02
三菱UFJ信託銀行株式会社 常任代理人 日本マスタートラスト信 託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	4,617	1.82
計	—	100,198	39.45

- (注) 1 森永製菓株式会社は26,248千株を所有しておりますが、同社はこのほかに5,200千株を退職給付信託として複数の金融機関に信託しております。
なお、信託した株式に係る議決権の行使および処分権については、信託契約上、森永製菓株式会社が指図権を留保しております。
- 2 大株主は平成25年3月31日現在の株主名簿に基づくものであります。
なお、アムンディ・ジャパン株式会社から、平成24年9月5日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成24年8月31日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができない部分については上記表に含めておりません。

大量保有者名	保有株式数(千株)	株式保有割合(%)
アムンディ・ジャパン株式会社	10,078	3.97

また、株式会社みずほ銀行から、平成25年4月5日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成25年3月29日現在で以下の株式を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができない部分については上記表に含めておりません。

大量保有者名	保有株式数(千株)	株式保有割合(%)
株式会社みずほ銀行	12,228	4.81
株式会社みずほコーポレート銀行	1,862	0.73
みずほ信託銀行株式会社	4,506	1.77
合計	18,596	7.32

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,022,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 56,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 244,565,000	244,565	—
単元未満株式	普通株式 2,334,218	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	253,977,218	—	—
総株主の議決権	—	244,565	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)および株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式892株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 森永乳業株式会社	東京都港区芝五丁目33番 1号	7,022,000	—	7,022,000	2.76
(相互保有株式) 株式会社サンフコ	東京都千代田区鍛冶町 1丁目8番3号	56,000	—	56,000	0.02
計	—	7,078,000	—	7,078,000	2.79

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。
当該制度の内容は、次のとおりであります。

(平成17年6月29日定時株主総会決議)

旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づき、平成17年6月29日の定時株主総会における特別決議により承認されたものであります。

決議年月日	平成17年6月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役8名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	108,000株を上限とする。
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1
新株予約権の行使期間	平成17年6月30日から平成37年6月29日までの範囲内で、当社取締役会において決定する。
新株予約権の行使の条件	1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り新株予約権を行使できるものとする。 2 前記1にかかわらず、新株予約権者は以下の(1)(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。 (1) 平成36年6月29日に至るまで新株予約権者が権利行使開始日を迎えていなかった場合 平成36年6月30日から平成37年6月29日まで (2) 当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案が当社株主総会で承認された場合、または当社が完全子会社となる株式交換契約書承認の議案もしくは株式移転の議案につき当社株主総会で承認された場合 当該議案承認日の翌日から15日間 3 各新株予約権1個当たりの一部行使はできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 新株予約権1個当たりの目的となる株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、当社が株式の分割または併合を行う場合には、次の算式により付与株式数を調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割} \cdot \text{併合の比率}$$

また、当社が合併または会社分割を行う場合等、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併または会社分割等の条件を勘案のうえ、合理的な範囲で付与株式数を調整するものとする。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

(平成18年6月29日定時株主総会決議)

会社法第238条第1項および第238条第2項ならびに第240条第1項の規定に基づき、平成18年6月29日の定時株主総会における決議により承認されたものであります。

決議年月日	平成18年6月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	(注) 1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	120,000株を上限とする。(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1
新株予約権の行使期間	新株予約権を割り当てる日の翌日から20年以内とする。
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から5年間に限り新株予約権を行使することができるものとし、その他の新株予約権の行使の条件については、本新株予約権の募集事項を決定する取締役会において定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1 当該ストックオプション制度に基づく付与対象者の区分及び人数は以下のとおりです。

平成18年7月27日取締役会決議	当社取締役8名
平成19年7月27日取締役会決議	当社取締役9名
平成20年7月10日取締役会決議	当社取締役8名
平成21年7月10日取締役会決議	当社取締役9名
平成22年7月12日取締役会決議	当社取締役9名
平成23年7月11日取締役会決議	当社取締役10名
平成24年7月11日取締役会決議	当社取締役10名

2 新株予約権1個当たりの目的となる株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

ただし、当社が、当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。)または株式併合等を行うことにより、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

3 当社取締役に対してストックオプションとして割り当てる新株予約権に関する報酬等の額は年額6,000万円を上限としております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号に該当する取得

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成25年3月11日) での決議状況 (取得日 平成25年3月12日)	4,000,000	1,300,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	3,700,000	1,065,600,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	300,000	234,400,000
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	7.5	18.0
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	7.5	18.0

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号に該当する取得

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	21,949	6,169,075
当期間における取得自己株式	2,611	759,654

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	39,363	14,603,955	34	11,127
保有自己株式数	7,022,892	—	7,025,469	—

(注) 1 当事業年度の内訳は、新株予約権の権利行使 (株式数38,000株、処分価額の総額14,098,000円) 及び単元未満株式の売渡請求による売渡 (株式数1,363株、処分価額の総額505,955円) であります。また、当期間は、単元未満株式の売渡請求による売渡であります。

2 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、企業体質の維持、強化のため、内部留保に意を用いつつ、業績、配当性向等も十分勘案しながら、安定的な配当を継続する方針であります。

当社は、年1回、期末において剰余金の配当を行うことを基本方針としており、剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の株主配当金につきましては、上記方針に基づき1株につき7円とすることを決定いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は73.1%となりました。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年6月27日 株主総会決議	1,728	7

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	357	448	382	362	322
最低(円)	238	280	250	262	256

(注) 株価は、東京証券取引所(市場第一部)の市場相場であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	274	271	276	295	304	299
最低(円)	260	256	262	274	275	285

(注) 株価は、東京証券取引所(市場第一部)の市場相場であります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		大 野 晃	昭和11年1月10日生	昭和33年4月 東京食品株式会社(現株式会社カ ーギルジャパン)入社 " 47年10月 東和製機株式会社(現株式会社ト ーワテクノ)常務取締役就任 " 48年6月 同社 代表取締役専務就任 " 52年6月 エムケーチーズ株式会社代表取 締役専務就任 " 54年6月 当社 常務取締役就任 " 56年6月 当社 専務取締役就任 " 57年8月 当社 取締役副社長就任 " 60年6月 当社 代表取締役社長就任 平成15年6月 当社 代表取締役会長就任(現 職)	(注) 3	237
代表取締役 社長		宮 原 道 夫	昭和26年1月4日生	昭和50年4月 当社 入社 平成6年4月 当社 東京多摩工場製造部次長 " 9年4月 当社 東京多摩工場製造部長 " 13年4月 当社 盛岡工場長 " 15年6月 当社 執行役員生産技術部エン ジニアリング担当部長 " 17年6月 当社 常務執行役員生産技術部 長 " 18年2月 当社 常務執行役員生産本部長 " 19年6月 当社 専務執行役員生産本部長 当社 専務取締役兼専務執行役 員生産本部長就任 " 21年5月 当社 専務取締役 " 21年6月 当社 取締役副社長就任 " 22年2月 当社 副社長執行役員第二営業 本部長委嘱 " 23年6月 当社 取締役副社長兼副社長執 行役員 当社 代表取締役副社長就任 当社 代表取締役社長就任(現 職)	(注) 3	51
専務取締役	専務執行 役員第一 営業本 部長	野 口 純 一	昭和25年6月30日生	昭和48年4月 当社 入社 平成9年6月 当社 関西支店販売促進第一部 長兼販売促進第二部長 " 11年11月 当社 関西支店市乳・D Y販売 部長 " 13年4月 当社 市乳・D Y事業部事業統 括室長 " 15年6月 当社 執行役員リテール事業部 長 " 18年2月 当社 執行役員チルド(リテー ル)事業部長 " 19年6月 当社 常務執行役員営業本部長 当社 常務取締役兼常務執行役 員営業本部長就任 " 21年5月 当社 常務取締役兼専務執行役 員営業本部長 " 21年6月 当社 専務取締役兼専務執行役 員営業本部長就任 " 22年2月 当社 専務取締役兼専務執行役 員第一営業本部長(現職)	(注) 3	48

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役		三浦 幸男	昭和22年9月25日生	昭和46年4月 当社 入社 平成8年4月 当社 経理部次長 " 12年4月 当社 経理部部长待遇 " 15年6月 当社 経理部長 " 19年4月 当社 財務部長 " 19年6月 当社 執行役員財務部長 " 22年6月 当社 常務執行役員財務部長 " 23年6月 当社 専務執行役員財務部長 当社 専務取締役兼専務執行役員財務部長就任 " 24年10月 当社 専務取締役(現職)	(注) 3	30
常務取締役	常務執行役員渉外本部長	小林 八郎	昭和23年4月11日生	昭和51年4月 当社 入社 平成11年10月 当社 広告部長 " 13年4月 当社 広告マーケティング部長 " 15年5月 当社 総務部長 " 18年2月 当社 人事部長 " 19年4月 当社 人財部長 " 19年6月 当社 執行役員人財部長 " 22年6月 当社 常務執行役員渉外副本部長兼人財部長 " 23年6月 当社 常務執行役員渉外本部長兼人財部長 当社 常務取締役兼常務執行役員渉外本部長兼人財部長就任 " 24年6月 当社 常務取締役兼常務執行役員渉外本部長(現職)	(注) 3	26
常務取締役		高瀬 光徳	昭和23年3月6日生	昭和48年4月 当社 入社 平成5年4月 当社 栄養科学研究所蛋白研究室長 " 6年11月 当社 栄養科学研究所栄養研究室長 " 9年1月 当社 栄養科学研究所小児栄養研究室長 " 17年6月 当社 栄養科学研究所長兼生物科学研究所長 " 18年12月 当社 栄養科学研究所長 " 19年6月 当社 執行役員栄養科学研究所長 " 22年6月 当社 常務執行役員栄養科学研究所長 " 23年6月 当社 取締役兼常務執行役員栄養科学研究所長就任 " 24年6月 当社 取締役 " 25年6月 当社 常務取締役就任(現職)	(注) 3	39
取締役	常務執行役員酪農部長	田村 賢	昭和31年6月29日生	昭和54年4月 当社 入社 平成16年5月 社団法人日本乳業協会出向 " 20年5月 当社 酪農部北海道担当部長 " 21年5月 当社 執行役員酪農部長 " 22年6月 当社 常務執行役員酪農部長 " 23年6月 当社 取締役兼常務執行役員酪農部長就任(現職)	(注) 3	20
取締役	常務執行役員生産本部長	青山 和夫	昭和27年5月7日生	昭和50年4月 当社 入社 平成9年4月 当社 東京多摩工場製造部次長 " 12年12月 当社 東京工場製造部長 " 17年12月 当社 東京工場長 " 20年4月 当社 品質保証部長 " 23年6月 当社 執行役員東京多摩工場長 " 25年6月 当社 常務執行役員生産本部長 当社 取締役兼常務執行役員生産本部長就任(現職)	(注) 3	11

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		文屋 貞男	昭和22年9月21日生	昭和46年4月 当社 入社 平成7年4月 当社 医薬品部次長 " 9年6月 当社 医薬品部長 " 13年4月 当社 乳食品事業部栄養食品部長 " 15年6月 当社 広報IR部長 " 18年2月 当社 総務部長兼法務室長 " 19年4月 当社 総務部長 " 20年6月 当社 常勤監査役就任(現職)	(注) 4	18
常勤監査役		飯島 信夫	昭和25年6月27日生	昭和48年4月 当社 入社 平成10年4月 当社 冷蔵冷食部次長 " 13年4月 当社 冷蔵事業部次長 " 15年6月 当社 冷蔵事業部長 " 17年6月 当社 執行役員冷蔵事業部長 " 19年6月 当社 執行役員関西支店長 " 20年5月 当社 執行役員リテール事業部長 " 21年5月 当社 常務執行役員リテール事業部長 " 22年2月 当社 常務執行役員第一営業本部リテール事業部長 " 22年6月 森永北陸乳業株式会社代表取締役社長就任 " 24年6月 当社 社長付 " 24年6月 当社 常勤監査役就任(現職)	(注) 4	20
監査役		武山 信義	昭和14年12月6日生	昭和33年4月 森永製菓株式会社入社 平成4年6月 同社 関連事業部長 " 7年7月 同社 理事・関連事業部長 " 8年6月 同社 理事・経理部長 " 12年6月 株式会社森栄商会代表取締役社長就任 " 17年6月 同社 代表取締役社長退任 " 19年6月 当社 監査役就任(現職)	(注) 5	32
監査役		富田 美栄子	昭和29年8月15日生	昭和55年4月 弁護士登録(現在、第一東京弁護士会所属) 西綜合法律事務所入所(現職) 平成13年4月 東京地方裁判所民事調停委員(現職) " 16年4月 昭和女子大学講師(~平成22年3月) " 19年10月 司法試験委員: 民事訴訟法(~平成22年10月) " 24年6月 当社 監査役就任(現職)	(注) 4	27
計						559

- (注) 1. 監査役武山信義および富田美栄子の両氏は、社外監査役であります。
2. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
加藤 一郎	昭和30年4月1日生	昭和58年4月 弁護士登録(東京弁護士会所属) 小堀合同法律事務所入所(現職)	—

- (注) 1. 当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 加藤一郎氏は、社外監査役の要件を満たしております。
3. 平成25年6月27日開催の定時株主総会において選任後2年。
4. 平成24年6月28日開催の定時株主総会において選任後4年。
5. 平成23年6月29日開催の定時株主総会において選任後4年。
6. 当社取締役の他の法人等の代表状況等は以下のとおりです。
宮原 道夫 東京飲用牛乳協会 会長
一般社団法人全国公正取引協議会連合会 会長
全国飲用牛乳公正取引協議会 委員長

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

1. 企業統治等の状況

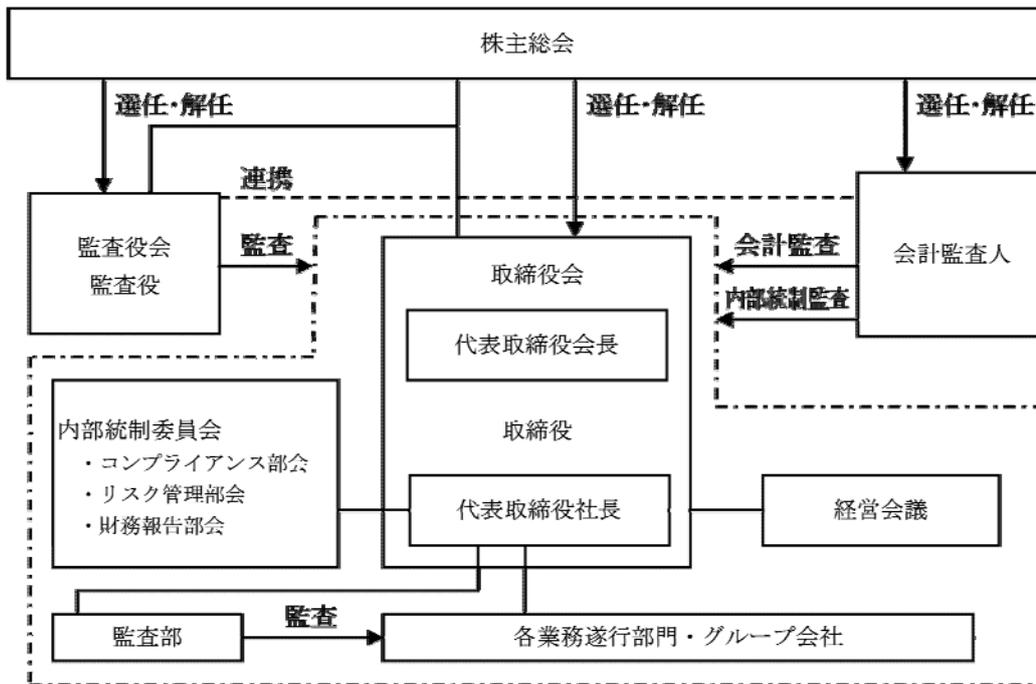
(1) 企業統治に関する基本的な考え方

当社グループは、変化の激しい経営環境に迅速かつ的確に対応して、組織体制、経営の仕組みを構築するとともに、経営の透明性と健全性の向上とコンプライアンスの徹底に取り組み、株主をはじめ各ステークホルダーとの円滑な関係の構築を通じつつ、企業価値の向上を目指してまいります。

(2) 企業統治の体制の概要

当社は監査役設置会社であります。

会社の機関、内部統制の関係は以下のとおりであります。



(3) 当該企業統治の体制を採用する理由

当社は、取締役会とは別に取締役と執行役員で構成する経営会議を設置しております。取締役および執行役員は、経営会議において、それぞれの職務の執行状況について意見交換を行い、当社にとって最適な効率を追求するように努めております。現在の取締役会、経営会議、および監査役制度については健全、適正に機能しているため、社外取締役は採用しておりません。

(4) 内部統制システム等の整備の状況

① 内部統制システムに関する基本的な考え方

当社グループは、コンプライアンス・リスク管理・財務報告の信頼性確保に取り組み、それぞれの担当部署が相互に内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われるよう内部統制の構築に取り組んでいます。

② 内部統制システムの整備状況

当社グループは、内部統制を構築するために、当社に内部統制委員会を設置し、総務部がその担当部署となっています。また、各グループ会社の内部統制の統括は、各グループ会社の業務部門が担当しています。

コンプライアンスについては、行動規範に則り、取締役および使用人が、法令および定款、社会倫理の遵守を企業活動の前提とすることを徹底しています。そのために、内部統制委員会コンプライアンス部会を設置し、グループ全体のコンプライアンス活動を推進し、グループコンプライアンス意識の拡大・浸透・定着に努めるとともに、社外弁護士を直接の情報受領者とする社内通報・相談制度「森乳ヘルプライン」を運用しています。

リスク管理については、個々のリスクを洗い出し、個々のリスクについての管理責任者を決定し、リスク管理体制の構築を進めております。そのために、内部統制委員会リスク管理部会を設置し、報告体制や協力体制の整備を進めています。

財務報告の信頼性確保については、業務手順の文書化をはじめとする財務報告作成のために必要な業務プロセス管理を徹底しています。そのために、内部統制委員会財務報告部会を設置し、グループ全体の財務報告の信頼性を確保できる体制の整備を進めています。

③反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社グループ行動規範のなかに定める「行動指針」に、反社会的勢力からの要求に対し、毅然とした対応をとり、利益供与や便宜の提供を拒否する旨を盛り込んでおります。

④反社会的勢力排除に向けた整備状況

対応統括部署により、警察署等の外部専門機関との連携をとり、各種対策を講じ対応することとしております。また、反社会的勢力に関する情報を収集蓄積するとともに、対応マニュアルを整備し、本社各部各事業所に対し研修等を行い対応方針の徹底を図っております。

2. 内部監査、監査役監査および会計監査の状況

(1) 内部監査および監査役監査の組織、人員および手続

内部監査につきましては、当社に監査部（8名）を設置し、当社各部門およびグループ会社の業務の適法性、妥当性および有効性について計画的に監査を実施しております。

監査役監査につきましては、各監査役が、監査役会が定めた監査方針、監査計画および監査方法に従って監査活動を実施しております。なお、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名を選任しております。

社外監査役の武山信義氏は、森永製菓株式会社にて理事・関連事業部長、理事・経理部長を務めてきており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

社外監査役の富田美栄子氏は、弁護士として高度な専門的知識を有しております。

(2) 会計監査の状況

会計監査につきましては、当社は新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、会社法に基づく計算書類および連結計算書類等の監査ならびに金融商品取引法に基づく財務計算に関する書類の監査を受けております。なお、当期において会計監査業務を執行した公認会計士および会計監査業務に係る補助者は下記のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員

大坂谷 卓

市瀬 俊司

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 8名、公認会計士試験合格者 2名、その他 7名

(3) 内部監査、監査役（社外監査役を含む）監査および会計監査の相互連携ならびにこれらの監査と内部統制部門との関係

監査役は、会計監査人より定期的に監査計画、監査状況および監査結果の説明・報告を受けるほか、随時期中において情報交換を行い、情報を共有化しております。また、会計監査人が行う現預金・有価証券類の実査への立会および共同でたな卸資産の実地たな卸の立会を行うことにより、監査の信頼性、妥当性の向上に向け一層の連携強化を図っております。

監査役は、内部監査を担当する監査部より定期的に監査計画、監査状況および監査結果の説明・報告を受けるほか、随時情報交換を行い情報の共有化を図るとともに、監査の信頼性、妥当性の向上に向け一層の連携強化に努めております。

内部統制委員会の特別委員として監査役1名を選任し、監査役と内部統制委員会における情報の共有化を図っております。また、内部監査を担当する監査部は、内部統制委員会に対し、監査計画、監査状況、監査結果の説明・報告を行うとともに、会計監査人と随時情報交換を行い、内部統制の信頼性、妥当性の向上に向け、連携強化に努めております。

3. 社外役員の状況

(1) 社外役員の員数等

社外取締役は採用していません。社外監査役は2名選任しております。

社外監査役との関係については、社外監査役2名は会社法第2条第16号の要件を満たしており、当社との間に特別な利害関係はありません。なお、社外監査役の略歴および所有する当社の株式数は「5 役員の状況」に記載のとおりであります。

(2) 社外監査役が企業統治において果たす機能および役割ならびに選任状況

現在4名の監査役のうち半数の2名を社外監査役とし、より公正な経営管理体制の構築に努めております。社外監査役2名は当社グループ外出身者であります。

なお、当社は現状、社外監査役を選任するにあたって独立性に関する基準又は方針を設けておりませんが、金融商品取引所の定める独立役員に関する判断基準を参考にしております。

(3) 社外取締役役に代わる社内体制および当該社内体制を採用する理由

取締役会を当社事業に精通した少数の取締役で構成することによって、経営効率の維持向上を図る一方、社外監査役2名を含む監査役機能の充実により、経営の健全化・透明性の維持強化を図っております。

また、社外監査役の富田美栄子氏は、東京証券取引所および大阪証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

さらに、内部監査を担当する監査部、監査役および会計監査人と内部統制委員会との相互連携や経営会議の設置等の取り組みにより、コーポレート・ガバナンスは十分に機能する体制が整っていると考えております。

4. 役員報酬等

当事業年度における役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数は以下のとおりであります。

区 分	員数	基本報酬	ストック オプション	報酬等の総額
取締役	10名	262百万円	25百万円	287百万円
監査役 (社外監査役を除く)	2名	41百万円	—	41百万円
社外監査役	2名	9百万円	—	9百万円
計	14名	313百万円	25百万円	339百万円

(注) 1 平成24年6月28日付けにて退任いたしました監査役2名に対し基本報酬7百万円（うち社外監査役1名1百万円）、平成17年6月29日株主総会決議による退職慰労金の打ち切り支給5百万円（うち社外監査役1名1百万円）を支払っておりますが上記の表には含まれておりません。

2 スtockオプションは、平成24年7月11日開催の取締役会決議に基づき、新株予約権（株式報酬型ストックオプション）115個を取締役10名に付与したものであります。

3 取締役のうち使用人兼務取締役6名（事業年度途中まで使用人兼務取締役であった2名含む）には上記表のほかに使用人給与相当額119百万円を支払っております。

4 役員の報酬等又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

i) 取締役・監査役の基本報酬の決定方法

取締役・監査役とも総報酬額が過去の株主総会で承認されている上限(月額：取締役36百万円、監査役5百万円)の範囲内で、以下により決定いたします。

- ・基本報酬は役位ごとに設定し、原則として年功による加算は行わない。
- ・取締役の基本報酬の体系は「基本給（固定報酬）＋業績報酬＝基本報酬額（月額）」とする。監査役については基本報酬額全額を基本給（固定報酬）とし、業績報酬の対象としない。
- ・業績報酬部分は、前年の業績を評価して毎年7月に見直しを行い、必要な改定を行う。固定報酬部分は世間水準等と比較して、改定が必要と判断される場合に改定する。
- ・業績報酬部分の業績反映は、代表取締役は単体および連結の会社業績によるものとし、その他の取締役は、単体および連結の会社業績と個人業績の双方を評価して行う。

ii) 取締役へのストックオプション付与決定方法

- ・当社取締役に対する退職慰労金制度を廃止し、これに代えてストックオプションとして新株予約権(行使することにより交付を受けることのできる当社普通株式1株あたりの払込金を1円とする新株予約権)を割り当てている。
- ・総個数及び総報酬額が過去の株主総会で承認されている上限(予約権1個につき付与普通株式数1千株とし、1年以内に発行できる予約権数上限は120個、報酬等合計上限は1年間で60百万円)の範囲内で、付与個数を役位別に決定している。

5. 株式の保有状況

(1) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 124銘柄
貸借対照表計上額 9,246百万円

(2) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 前事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
ゼリア新薬工業(株)	1,854,741	2,732	取引先との関係強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	13,739,964	1,854	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,798,950	1,153	同上
森永製菓(株)	3,431,921	658	同上
(株)武蔵野銀行	90,262	257	同上
(株)オークワ	204,281	241	同上
イオン(株)	155,934	169	同上
太陽化学(株)	242,000	147	同上
(株)肥後銀行	195,798	95	同上
三菱食品(株)	42,137	89	同上
(株)静岡銀行	102,378	87	同上
東京海上ホールディングス(株)	33,225	75	同上
(株)ヤクルト本社	26,226	74	同上
(株)マルエツ	219,857	68	同上
(株)セブン&アイ・ホールディングス	26,274	64	同上
ユニー(株)	70,667	63	同上
(株)常陽銀行	142,477	53	同上
東洋水産(株)	23,970	51	同上
(株)東武ストア	155,127	43	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,880	43	同上
不二製油(株)	35,431	41	同上
(株)サークルKサンクス	23,291	41	同上
加藤産業(株)	21,800	35	同上

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上相当額 (百万円)	保有目的
(株)阿波銀行	1,028,000	522	退職給付信託として信託設定しており、信託約款上、当該株式の議決権行使の指図権は当社が留保しております。
(株)セブン&アイ・ホールディングス	168,800	414	同上
東洋製罐(株)	235,000	278	同上
(株)横浜銀行	501,000	207	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,483,000	200	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	45,600	124	同上
(株)静岡銀行	76,000	64	同上

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
ゼリア新薬工業(株)	1,854,741	2,693	取引先との関係強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,799,000	1,561	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	3,940,000	784	同上
森永製菓(株)	3,431,921	706	同上
(株)武蔵野銀行	90,262	333	同上
(株)オークワ	207,998	217	同上
イオン(株)	158,242	192	同上
太陽化学(株)	242,000	172	同上
鴻池運輸(株)	100,000	151	同上
三菱食品(株)	42,400	124	同上
(株)肥後銀行	195,798	117	同上
(株)静岡銀行	102,378	108	同上
(株)ヤクルト本社	26,226	99	同上
東京海上ホールディングス(株)	33,225	88	同上
(株)セブン&アイ・ホールディングス	26,274	81	同上
(株)マルエツ	219,857	77	同上
(株)常陽銀行	142,477	75	同上
東洋水産(株)	23,970	69	同上

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,880	59	同上
ユニー(株)	70,667	52	同上
不二製油(株)	35,431	51	同上
(株)帝国ホテル	13,000	46	同上
日本マクドナルドホールディングス(株)	17,179	44	同上

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上相当額(百万円)	保有目的
(株)阿波銀行	1,028,000	600	退職給付信託として信託設定しており、信託約款上、当該株式の議決権行使の指図権は当社が留保しております。
(株)セブン&アイ・ホールディングス	168,800	525	同上
東洋製罐(株)	235,000	311	同上
(株)横浜銀行	501,000	273	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,483,000	295	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	45,600	172	同上
(株)静岡銀行	76,000	80	同上

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

6. 社外役員との責任限定契約の内容の概要

平成24年6月28日開催の第89期定時株主総会で定款を変更し、社外取締役及び社外監査役との責任限定契約の規定を設けております。社外監査役との責任限定契約の内容の概要は以下のとおりであります。

- ①社外監査役が当社に対して会社法第423条第1項の損害賠償責任を負う場合は、法令に定める最低責任限度額を限度として、その責任を負う。
- ②上記の責任限定が認められるのは、当該社外監査役がその責任の原因となった職務の遂行について、善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。

7. 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

8. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び取締役の選任決議は、累積投票によらない旨定款に定めております。

9. 取締役会で決議できる株主総会決議事項

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするためのものであります。

10. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の定めによる決議は、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	65	—	63	—
連結子会社	2	—	7	—
計	68	—	70	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社及び当社の海外の連結子会社の一部は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属するアーンストヤング・グループに業務を依頼しており、報酬の合計額は、5百万円であります。

(当連結会計年度)

当社の海外の連結子会社の一部は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属するアーンストヤング・グループに業務を依頼しており、報酬の合計額は、5百万円であります。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容の適切な把握、及び会計基準等の変更等への的確な対応を実施できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、適時適切な情報収集を行うとともに、同機構が行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,692	17,612
受取手形及び売掛金	※5 54,361	※5 56,144
商品及び製品	27,804	31,256
仕掛品	1,147	990
原材料及び貯蔵品	7,029	6,646
繰延税金資産	3,776	4,347
その他	13,022	11,008
貸倒引当金	△833	△655
流動資産合計	123,000	127,348
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	144,069	151,268
減価償却累計額	△76,660	△82,577
建物及び構築物（純額）	※1 67,408	※1 68,691
機械装置及び運搬具	245,481	250,193
減価償却累計額	△186,443	△192,017
機械装置及び運搬具（純額）	※1 59,038	※1 58,176
土地	※1 73,835	※1 73,501
リース資産	6,387	7,893
減価償却累計額	△2,435	△3,714
リース資産（純額）	3,952	4,179
建設仮勘定	5,362	3,183
その他	15,238	15,437
減価償却累計額	△12,374	△12,650
その他（純額）	2,863	2,787
有形固定資産合計	212,460	210,518
無形固定資産		
その他	5,461	5,827
無形固定資産合計	5,461	5,827
投資その他の資産		
投資有価証券	※1, ※2 14,311	※1, ※2 14,515
出資金	※2 93	※2 93
長期貸付金	534	476
繰延税金資産	2,940	2,301
その他	7,583	7,594
貸倒引当金	△194	△177
投資その他の資産合計	25,268	24,803
固定資産合計	243,190	241,150
資産合計	366,190	368,498

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※5 58,155	※5 59,192
電子記録債務	※5 5,065	※5 5,025
短期借入金	※1 4,441	※1 4,863
1年内償還予定の社債	10,000	15,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 5,111	※1 11,331
リース債務	1,580	1,912
未払法人税等	—	726
未払費用	30,021	30,013
預り金	23,972	22,591
その他	9,655	8,809
流動負債合計	148,004	159,466
固定負債		
社債	60,000	45,000
長期借入金	※1 23,374	※1 25,088
リース債務	3,570	3,785
退職給付引当金	11,413	11,525
資産除去債務	302	265
その他	5,590	6,617
固定負債合計	104,250	92,282
負債合計	252,255	251,748
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,704	21,704
資本剰余金	19,442	19,442
利益剰余金	70,866	74,126
自己株式	△1,241	△2,298
株主資本合計	110,772	112,974
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,242	3,091
繰延ヘッジ損益	△4	△0
為替換算調整勘定	△386	△225
その他の包括利益累計額合計	1,851	2,865
新株予約権	183	196
少数株主持分	1,128	713
純資産合計	113,935	116,750
負債純資産合計	366,190	368,498

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	578,299	591,197
売上原価	※1 399,780	※1 412,554
売上総利益	178,518	178,643
販売費及び一般管理費	※2, ※3 165,334	※2, ※3 168,477
営業利益	13,184	10,166
営業外収益		
受取利息	77	86
受取配当金	518	405
受取家賃	492	498
持分法による投資利益	56	54
その他	1,086	1,285
営業外収益合計	2,231	2,331
営業外費用		
支払利息	1,739	1,606
コマーシャル・ペーパー利息	2	1
その他	486	337
営業外費用合計	2,228	1,945
経常利益	13,187	10,551
特別利益		
固定資産売却益	※4 103	※4 1,159
負ののれん発生益	218	23
補助金収入	250	—
移転補償金	100	—
その他	98	6
特別利益合計	771	1,188
特別損失		
固定資産処分損	※5 470	※5 397
公益財団法人ひかり協会負担金	1,671	1,663
減損損失	※6 1,820	※6 390
工場再編費用	902	344
災害による損失	※7 1,077	—
その他	159	309
特別損失合計	6,102	3,105
税金等調整前当期純利益	7,857	8,635
法人税、住民税及び事業税	2,321	2,394
法人税等調整額	734	1,163
法人税等合計	3,055	3,557
少数株主損益調整前当期純利益	4,801	5,077
少数株主利益	192	60
当期純利益	4,608	5,016

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	4,801	5,077
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	914	850
繰延ヘッジ損益	△7	4
為替換算調整勘定	△72	200
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	※ 834	※ 1,056
包括利益	5,635	6,133
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,473	6,030
少数株主に係る包括利益	162	103

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	21,704	21,704
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	21,704	21,704
資本剰余金		
当期首残高	19,442	19,442
当期変動額		
自己株式の処分	△0	△2
利益剰余金から資本剰余金への振替	0	2
当期変動額合計	—	—
当期末残高	19,442	19,442
利益剰余金		
当期首残高	67,979	70,866
当期変動額		
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	4,608	5,016
利益剰余金から資本剰余金への振替	△0	△2
連結範囲の変動	33	—
当期変動額合計	2,887	3,259
当期末残高	70,866	74,126
自己株式		
当期首残高	△1,234	△1,241
当期変動額		
自己株式の取得	△10	△1,071
自己株式の処分	3	14
当期変動額合計	△6	△1,057
当期末残高	△1,241	△2,298
株主資本合計		
当期首残高	107,892	110,772
当期変動額		
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	4,608	5,016
自己株式の取得	△10	△1,071
自己株式の処分	3	12
利益剰余金から資本剰余金への振替	—	—
連結範囲の変動	33	—
当期変動額合計	2,880	2,202
当期末残高	110,772	112,974

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,327	2,242
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	914	849
当期変動額合計	914	849
当期末残高	2,242	3,091
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	3	△4
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7	4
当期変動額合計	△7	4
当期末残高	△4	△0
為替換算調整勘定		
当期首残高	△343	△386
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△42	161
当期変動額合計	△42	161
当期末残高	△386	△225
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	986	1,851
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	864	1,014
当期変動額合計	864	1,014
当期末残高	1,851	2,865
新株予約権		
当期首残高	153	183
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	29	13
当期変動額合計	29	13
当期末残高	183	196
少数株主持分		
当期首残高	1,277	1,128
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△148	△415
当期変動額合計	△148	△415
当期末残高	1,128	713

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
純資産合計		
当期首残高	110,310	113,935
当期変動額		
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	4,608	5,016
自己株式の取得	△10	△1,071
自己株式の処分	3	12
連結範囲の変動	33	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	745	612
当期変動額合計	3,625	2,814
当期末残高	113,935	116,750

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,857	8,635
減価償却費	17,276	17,674
減損損失	1,820	390
のれん償却額	125	127
負ののれん償却額	△203	△303
負ののれん発生益	△218	△23
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	84	100
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△166	△195
投資有価証券評価損益 (△は益)	70	60
受取利息及び受取配当金	△595	△492
支払利息	1,739	1,606
為替差損益 (△は益)	20	△24
持分法による投資損益 (△は益)	△56	△54
固定資産売却損益 (△は益)	△103	△1,159
固定資産処分損益 (△は益)	470	397
投資有価証券売却損益 (△は益)	△58	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,387	△1,698
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,798	△2,753
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,430	1,249
未払費用の増減額 (△は減少)	242	32
預り金の増減額 (△は減少)	10,660	△1,380
その他	△3,232	1,250
小計	30,976	23,440
利息及び配当金の受取額	669	547
利息の支払額	△1,740	△1,649
法人税等の支払額	△6,563	△1,282
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,342	21,055
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△15,330	△15,985
固定資産の売却による収入	284	1,586
投資有価証券の取得による支出	△666	△1,978
投資有価証券の売却による収入	1,370	3,068
貸付けによる支出	△5,683	△6,768
貸付金の回収による収入	5,803	7,256
その他	△0	△491
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,221	△13,312

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△4,236	169
長期借入れによる収入	877	12,900
長期借入金の返済による支出	△6,120	△5,105
社債の発行による収入	9,938	—
社債の償還による支出	—	△10,000
自己株式の売却による収入	1	0
自己株式の取得による支出	△10	△1,071
配当金の支払額	△1,754	△1,754
少数株主への配当金の支払額	△5	△8
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,580	△1,988
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,889	△6,859
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	84
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,209	968
現金及び現金同等物の期首残高	10,101	16,336
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	24	—
現金及び現金同等物の期末残高	※ 16,336	※ 17,305

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

当連結財務諸表に含まれた連結子会社は30社であります。

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため省略いたします。

なお、非連結子会社の森永牛乳販売(株)ほか34社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも当連結財務諸表に及ぼす影響に重要性が乏しいため連結の範囲から除いております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した会社 4社

①非連結子会社

パックス冷蔵(株)、(株)関西流通、(株)東日本トランスポート

②関連会社

ハルビン森永乳業(有)

(2) 持分法を適用しない非連結子会社又は関連会社

①非連結子会社：森永牛乳販売(株)ほか31社

②関連会社：(株)森栄商会ほか6社

上記の会社については、連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が乏しく、かつ、全体としても重要性がないため、これらの会社に対する投資については持分法を適用せず、原価法により評価しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

決算日が連結決算日と異なる連結子会社は下表のとおりです。

なお、当連結財務諸表の作成に当って、連結決算日との間に生じた重要な取引を調整した上でその決算日の財務諸表を使用しております。

会社名	決算日
森永ニュートリショナルフーズINC.	12月末日
パシフィック・ニュートリショナルフーズINC.	〃
ミライGMBH.	〃
エム・エム・プロパティ・ファンディング(株)	2月末日

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① たな卸資産

製品、商品、半製品

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料、貯蔵品

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

② 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

主として移動平均法による原価法

③ 特定包括信託等

粉乳中毒事件に関連し、被災者救済事業資金の支出を確実にすることを目的として設定する粉乳中毒救済基金の特定包括信託については、その他有価証券に準じて評価しております。

④ デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

建物及び建物附属設備については、主として定額法、その他の資産については、主として定率法によっております。

ただし、当社神戸工場の建物及び建物附属設備並びにその他の資産については定額法を採用しております。

② 無形固定資産 (リース資産を除く)

主として定額法。

ただし、販売目的のソフトウェアについては、主として販売可能期間の見積り(3年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

ただし、リース物件の所有権が借主に移転するものと認められる以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結決算日において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務については、発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により均等償却を行っております。

数理計算上の差異については、発生年度における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。

② 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については主として貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産、負債、収益及び費用は、当該子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(5)重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

金利スワップについて、金融商品会計に係る会計基準に定める特例処理の要件を満たしており、この特例処理によっております。

また、為替予約について、外貨建予定取引について振当処理を行っております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段…金利スワップ、為替予約

ヘッジ対象…借入金の利息、製品輸入による外貨建金銭債務及び外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

権限規定に基づき、金融市場の金利変動リスク及び為替変動リスクの対応手段として、デリバティブ取引を実施しております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップについては特例処理によっており、有効性の評価を省略しております。

また、為替予約については当該取引の過去の実績及び今後の予定などを勘案し、実行可能性があることを検証することにより有効性の評価を行っております。

(6)のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現すると見積られる期間（計上後20年以内）で均等償却しております。

ただし、その金額に重要性が乏しい場合には、発生会計年度に全額償却しております。

(7)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

1. 概要

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に変更されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

2. 適用予定日

平成26年3月期の年度末に係る連結財務諸表から適用します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の財務諸表に対しては遡及適用しません。

3. 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
土地	3,351百万円	3,389百万円
建物及び構築物	19,362	20,102
機械装置及び運搬具	4,041	4,396
投資有価証券	10	10
合計	26,765	27,898

なお、投資有価証券は宅建業営業保証金として担保に供したものであります。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
短期借入金	70百万円	70百万円
長期借入金(一年以内返済予定含む)	17,282	15,632

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券	3,479百万円	3,746百万円
出資金	14	14

3 偶発債務

次の関係会社について、取引先への商品代金に対し債務保証を行っております。

債務保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
㈱サンフコ(仕入債務)	2百万円	㈱サンフコ(仕入債務) 2百万円

4 コミットメントライン契約

提出会社は、機動的な資金調達を行うために取引金融機関14行との間で、コミットメントライン契約を締結しておりますが、当連結会計年度末において借入は実行しておりません。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
コミットメントラインの総額	30,000百万円	30,000百万円
借入実行残高	—	—
借入未実行残高	30,000	30,000

※5 連結会計年度末日満期手形及び電子記録債務

連結会計年度末日満期手形及び電子記録債務の処理については手形交換日等をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形及び電子記録債務が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	460百万円	449百万円
支払手形	67	67
電子記録債務	552	535

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。なお、以下の金額は戻入額と相殺した後のものであります。

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
△172百万円	295百万円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 販売費		
拡売費	68,304百万円	70,540百万円
運送費・保管料	45,416	46,648
従業員給料・賞与	13,629	13,609
貸倒引当金繰入額	△57	△170
(2) 一般管理費		
従業員給料・賞与	7,718	7,764
福利厚生費	1,458	1,486

※3 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
4,839百万円	4,915百万円

※4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
土地	97百万円	1,156百万円
機械装置他	5	2
計	103	1,159

※5 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具	255百万円	205百万円
建物及び構築物	134	99
工具器具備品他	80	92
計	470	397

※6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
鹿児島県鹿屋市	遊休資産	土地及び建物等	30
香川県高松市	遊休資産	土地	3
福島県郡山市 (当社 郡山工場)	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	719
徳島県名西郡 (当社 徳島工場)	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	622
福岡県筑紫野市 (九州森永乳業(株))	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	444
計			1,820

当社グループは、事業用資産については管理会計上の事業区分を基本とし、賃貸資産および遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。上記資産は遊休状態となり、今後の使用見込みもないため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（1,820百万円）として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物及び構築物1,098百万円、機械装置及び運搬具684百万円、土地27百万円、その他資産10百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、この評価額は、土地については路線価による相続税評価額を基準として算定し、その他の資産については零として評価しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
東京都品川区	遊休資産	土地	165
北海道恵庭市 (当社 札幌工場)	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	224
計			390

当社グループは、事業用資産については管理会計上の事業区分を基本とし、賃貸資産および遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。上記資産は遊休状態となり、今後の使用見込みもないため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（390百万円）として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物及び構築物48百万円、機械装置及び運搬具174百万円、土地165百万円、その他資産1百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、この評価額は、土地については路線価による相続税評価額を基準として算定し、その他の資産については零として評価しております。

※7 災害による損失は、東日本大震災によるものであり、主な内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
たな卸資産減失損	210百万円	—百万円
固定資産減失損及び原状回復費用	284	—
被災者・被災地への義援金及び物資支援等	258	—

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,303百万円	1,289百万円
組替調整額	△47	15
税効果調整前	1,255	1,304
税効果額	△340	△454
その他有価証券評価差額金	914	850
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	△24	12
組替調整額	12	△6
税効果調整前	△12	6
税効果額	4	△2
繰延ヘッジ損益	△7	4
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△72	200
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	△0	1
その他の包括利益合計	834	1,056

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当連結会計年度増加株式数(千株)	当連結会計年度減少株式数(千株)	当連結会計年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	253,977	—	—	253,977
合計	253,977	—	—	253,977
自己株式				
普通株式(注)1,2	3,316	33	10	3,340
合計	3,316	33	10	3,340

(注)1 普通株式の当連結会計年度における株式数の増加は、単元未満株式の買取り請求によるものであります。

2 普通株式の当連結会計年度における株式数の減少は、単元未満株式の買増し請求による減少5千株及びストックオプションの行使による減少5千株によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(千株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社(親会社)	平成17年度新株予約権	普通株式	47	—	—	47	—
	ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	183
連結子会社	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—	183

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,754	7	平成23年3月31日	平成23年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,754	利益剰余金	7	平成24年3月31日	平成24年6月29日

当連結会計年度（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当連結会計年度増加株式数(千株)	当連結会計年度減少株式数(千株)	当連結会計年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	253,977	—	—	253,977
合計	253,977	—	—	253,977
自己株式				
普通株式(注)1,2	3,340	3,721	39	7,022
合計	3,340	3,721	39	7,022

(注)1 普通株式の当連結会計年度における株式数の増加は、単元未満株式の買取り請求による増加21千株及び取締役会決議による自己株式の取得による増加3,700千株によるものであります。

2 普通株式の当連結会計年度における株式数の減少は、単元未満株式の買増し請求による減少1千株及びストックオプションの行使による減少38千株によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(千株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社(親会社)	平成17年度新株予約権	普通株式	47	—	—	47	—
	ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	196
連結子会社	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—	196

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,754	7	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,728	利益剰余金	7	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
現金及び預金勘定	16,692百万円	17,612百万円
預入期間が3か月を超える定期預金等	△356	△307
現金及び現金同等物	16,336	17,305

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引 (借手側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として食品事業における生産設備 (機械装置及び運搬具) 及び販売設備 (工具、器具及び備品) であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	708	475	232
その他	2,764	2,448	315
合計	3,472	2,924	548

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	589	413	176
その他	90	76	13
合計	680	490	189

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	358	53
1年超	189	136
合計	548	189

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	937	358
減価償却費相当額	937	358

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引（借手側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	268	766
1年超	317	811
合計	585	1,578

3. ファイナンス・リース取引（貸手側）

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高

（単位：百万円）

	前連結会計年度（平成24年3月31日）		
	取得価額	減価償却累計額	期末残高
機械装置及び運搬具	248	230	18

（単位：百万円）

	当連結会計年度（平成25年3月31日）		
	取得価額	減価償却累計額	期末残高
機械装置及び運搬具	42	39	2

(2) 未経過リース料期末残高相当額

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	18	2
1年超	2	—
合計	20	2

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の合計額が営業債権の期末残高等に占める割合が低いため、受取利子込み法により算定しております。

(3) 受取リース料及び減価償却費

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
受取リース料	52	19
減価償却費	41	17

4. オペレーティング・リース取引（貸手側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	131	134
1年超	208	206
合計	340	341

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定しております。また、資金調達については銀行借入れによる間接金融のほか、社債やコマーシャル・ペーパーの発行による直接金融により行っております。デリバティブは、為替及び金利変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。当該リスクに関しては、与信及び債権管理規程に従い取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクにさらされておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価を把握し管理しております。

支払手形及び買掛金、預り金は、主に支払期日が1年以内の営業債務であります。

短期借入金、コマーシャル・ペーパーは主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものです。変動金利の借入金は、金利の変動リスクにさらされておりますが、このうち長期のものについてはおおむね、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務及び予定取引に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項

(5) 重要なヘッジ会計の方法」に記載のとおりであります。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクにさらされておりますが、当社グループでは各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価格が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。（（注）4を参照ください）

前連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照 表計上額	時価 (注) 3	差額
①現金及び預金	16,692	16,692	-
②受取手形及び売掛金	(注) 1 53,853	53,853	-
③投資有価証券 (注) 4 その他有価証券	9,883	9,883	-
資産合計	80,429	80,429	-
④支払手形及び買掛金	58,155	58,155	-
⑤短期借入金	4,441	4,441	-
⑥預り金	23,972	23,972	-
⑦社債	70,000	71,331	1,331
⑧長期借入金	28,485	29,332	846
負債合計	185,054	187,232	2,177
⑨デリバティブ取引 (注) 2	(13)	(13)	-

当連結会計年度（平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照 表計上額	時価 (注) 3	差額
①現金及び預金	17,612	17,612	-
②受取手形及び売掛金	(注) 1 55,790	55,790	-
③投資有価証券 (注) 4			
その他有価証券	9,947	9,947	-
資産合計	83,350	83,350	-
④支払手形及び買掛金	59,192	59,192	-
⑤短期借入金	4,863	4,863	-
⑥預り金	22,591	22,591	-
⑦社債	60,000	61,138	1,138
⑧長期借入金	36,419	37,363	944
負債合計	183,066	185,149	2,082
⑨デリバティブ取引 (注) 2	2	2	-

- (注) 1 受取手形及び売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。
- 2 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる場合は（ ）で示すこととしております。
- 3 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
- ①現金及び預金
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- ②受取手形及び売掛金
これらの時価は、連結決算日における連結貸借対照表計上額から貸倒引当金を控除した金額に近似していることから、当該金額によっております。
- ③投資有価証券
これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は市場価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」を参照下さい。
- ④支払手形及び買掛金、⑤短期借入金、⑥預り金
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- ⑦社債
当社の発行する社債の時価は、市場価格によっております。
- ⑧長期借入金
長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入れを行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入れを行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。
- ⑨デリバティブ取引
注記事項「デリバティブ取引関係」を参照下さい。
- 4 非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「③投資有価証券」には含めておりません。非上場株式の連結貸借対照表計上額は次のとおりであります。

（単位：百万円）

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	4,427	4,567

5 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	16,692	—	—	—
受取手形及び売掛金	53,853	—	—	—
投資有価証券 其他有価証券のうち満期 があるもの 債券（国債・地方債等）	—	10	—	—
合計	70,545	10	—	—

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	17,612	—	—	—
受取手形及び売掛金	55,790	—	—	—
投資有価証券 其他有価証券のうち満期 があるもの 債券（国債・地方債等）	—	10	—	—
合計	73,403	10	—	—

6 社債、借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,441	—	—	—	—	—
社債	10,000	15,000	15,000	10,000	10,000	10,000
長期借入金	5,111	10,272	2,962	2,170	1,677	6,290
合計	19,552	25,272	17,962	12,170	11,677	16,290

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,863	—	—	—	—	—
社債	15,000	15,000	10,000	10,000	10,000	—
長期借入金	11,331	4,012	3,065	2,593	8,190	7,225
合計	31,194	19,012	13,065	12,593	18,190	7,225

(有価証券関係)

- 1 売買目的有価証券
該当ありません。
- 2 満期保有目的の債券
該当ありません。
- 3 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	6,745	3,068	3,676
(2) 債券 国債・地方債等	10	10	0
小計	6,755	3,078	3,676
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	3,128	3,373	△244
小計	3,128	3,373	△244
合計	9,883	6,452	3,431

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 948百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	8,655	3,744	4,910
(2) 債券 国債・地方債等	10	10	0
小計	8,665	3,754	4,910
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	1,282	1,439	△157
小計	1,282	1,439	△157
合計	9,947	5,194	4,753

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 821百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	1,370	58	—
合計	1,370	58	—

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	3,068	6	6
合計	3,068	6	6

5. 減損処理を行った有価証券

有価証券について、当連結会計年度は60百万円（子会社株式45百万円、その他有価証券15百万円）、前連結会計年度は70百万円（その他有価証券）減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
通貨関連
前連結会計年度 (平成24年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建 米ドル	169	—	△6	△6

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度 (平成25年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建 米ドル	397	—	3	3

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

前連結会計年度 (平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	5,347	4,192	(注) 2

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度 (平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	15,450	10,519	(注) 2

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(2)通貨関連

前連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約 原則処理	為替予約取引 買建 米ドル	予定取引	450	—	△7

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約 原則処理	為替予約取引 買建 ユーロ	予定取引	121	—	△0

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、規約型確定給付企業年金制度（キャッシュバランプラン）及び退職一時金制度を設けております。

また、当社において規約型確定給付企業年金制度に対し退職給付信託を設定しております。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務 (百万円)	△20,432	△22,140
(2) 年金資産 (百万円)	7,921	9,629
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2) (百万円)	△12,511	△12,510
(4) 未認識数理計算上の差異 (百万円)	2,393	2,417
(5) 未認識過去勤務債務 (百万円)	382	361
(6) 貸借対照表計上純額(3)+(4)+(5) (百万円)	△9,735	△9,731
(7) 前払年金費用 (百万円)	1,678	1,793
(8) 退職給付引当金(6)-(7) (百万円)	△11,413	△11,525

(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 勤務費用 (百万円)	1,518	1,350
(2) 利息費用 (百万円)	356	356
(3) 期待運用収益 (百万円)	△110	△125
(4) 数理計算上の差異の費用処理額 (百万円)	603	596
(5) 過去勤務債務の費用処理額 (百万円)	21	21
(6) 割増退職金等 (百万円)	230	—
(7) 退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)+(5)+(6) (百万円)	2,620	2,198

4 退職給付債務の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法 …期間定額基準。ただし、退職一時金制度のうち給与比例部分についてはポイント制。

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.3%	1.4%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.3%	2.3%

(注) 退職給付信託分は見込んでおりません。

(4) 数理計算上の差異の処理年数 …規約型確定給付企業年金分及び退職一時金分12.8～19.8年。

(発生年度における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(5) 過去勤務債務の額の処理年数 …19.7年

(発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により均等償却を行っております。)

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
販売費及び一般管理費	31	25

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成17年ストック・オプション	平成18年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 8名	当社取締役 8名
株式の種類別のストック・オプション(注)	普通株式 108,000株	普通株式 108,000株
付与日	平成17年7月27日	平成18年8月11日
権利確定条件	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>2 行使可能期間にかかわらず、新株予約権者は以下の(1)(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 平成36年6月29日に至るまで新株予約権者が権利行使開始日を迎えなかった場合 平成36年6月30日から平成37年6月29日まで</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案が当社株主総会で承認された場合、または当社が完全子会社となる株式交換契約書承認の議案もしくは株式移転の議案につき当社株主総会で承認された場合 当該議案承認日の翌日から15日間</p> <p>3 各新株予約権1個当たりの一部行使はできないものとする。</p>	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した時に限り、募集新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1に拘わらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、募集新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成37年8月11日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成37年8月12日から平成38年8月11日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、または当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議の決定がなされた場合) 当該承認日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。</p>
対象勤務期間	平成17年7月27日から上記権利確定条件を満たす迄の期間	平成18年8月11日から上記権利確定条件を満たす迄の期間
権利行使期間	平成17年7月28日から平成37年6月29日まで	平成18年8月12日から平成38年8月11日まで

(注) 株式数に換算して記載しております。

	平成19年ストック・オプション	平成20年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名	当社取締役 8名
株式の種類別のストック・オプション(注)	普通株式 117,000株	普通株式 106,000株
付与日	平成19年8月13日	平成20年8月12日
権利確定条件	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した時の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1にかかわらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、募集新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成38年8月13日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成38年8月14日から平成39年8月13日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。</p>	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1にかかわらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、募集新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成39年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成39年8月13日から平成40年8月12日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。</p>
対象勤務期間	平成19年8月13日から上記権利確定条件を満たす迄の期間	平成20年8月12日から上記権利確定条件を満たす迄の期間
権利行使期間	平成19年8月14日から平成39年8月13日まで	平成20年8月13日から平成40年8月12日まで

(注) 株式数に換算して記載しております。

	平成21年ストック・オプション	平成22年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名	当社取締役 9名
株式の種類別のストック・オプション(注)	普通株式 115,000株	普通株式 115,000株
付与日	平成21年8月12日	平成22年8月12日
権利確定条件	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1にかかわらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、募集新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成40年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成40年8月13日から平成41年8月12日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、当該募集新株予約権を行使することができないものとする。</p>	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1にかかわらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成41年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成41年8月13日から平成42年8月12日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日または決議日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができないものとする。</p>
対象勤務期間	平成21年8月12日から上記権利確定条件を満たす迄の期間	平成22年8月12日から上記権利確定条件を満たす迄の期間
権利行使期間	平成21年8月13日から平成41年8月12日まで	平成22年8月13日から平成42年8月12日まで

(注) 株式数に換算して記載しております。

	平成23年ストック・オプション	平成24年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 10名	当社取締役 10名
株式の種類別のストック・オプション(注)	普通株式 115,000株	普通株式 115,000株
付与日	平成23年8月12日	平成24年8月13日
権利確定条件	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1にかかわらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成42年8月12日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成42年8月13日から平成43年8月12日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができないものとする。</p>	<p>1 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年間に限り、募集新株予約権を行使することができる。</p> <p>2 上記1にかかわらず、新株予約権者は、以下の(1)または(2)に定める場合には、それぞれに定める期間内に限り、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(1) 新株予約権者が平成43年8月13日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成43年8月14日から平成44年8月13日</p> <p>(2) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日の翌日から15日間</p> <p>3 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができないものとする。</p>
対象勤務期間	平成23年8月12日から上記権利確定条件を満たす迄の期間	平成24年8月13日から上記権利確定条件を満たす迄の期間
権利行使期間	平成23年8月13日から平成43年8月12日まで	平成24年8月14日から平成44年8月13日まで

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成25年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① ストック・オプションの数

	平成17年 ストック・オプション	平成18年 ストック・オプション	平成19年 ストック・オプション	平成20年 ストック・オプション	平成21年 ストック・オプション	平成22年 ストック・オプション	平成23年 ストック・オプション	平成24年 ストック・オプション
権利確定前 (株)								
前連結会計年度末	36,000	36,000	72,000	72,000	76,000	76,000	115,000	—
付与	—	—	—	—	—	—	—	115,000
失効	—	—	—	—	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—	—	—	—	—
未確定残	36,000	36,000	72,000	72,000	76,000	76,000	115,000	115,000
権利確定後 (株)								
前連結会計年度末	11,000	11,000	34,000	34,000	39,000	39,000	—	—
権利確定	—	—	—	—	—	—	—	—
権利行使	—	—	11,000	11,000	8,000	8,000	—	—
失効	—	—	—	—	—	—	—	—
未行使残	11,000	11,000	23,000	23,000	31,000	31,000	—	—

② 単価情報

権利行使価格 (円)	1	1	1	1	1	1	1	1
行使時平均株価 (円)	—	—	299	299	271	271	—	—
付与日における公正な評価単価 (円)	—	356	390	246	323	267	270	222

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された平成24年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりです。

① 使用した評価技法 ブラック・ショールズモデル

② 主な基礎数値及び見積方法

	平成24年ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	26.746%
予想残存期間 (注) 2	10年
予想配当 (注) 3	7円/株
無リスク利率 (注) 4	0.816%

(注) 1. 10年間（平成14年8月13日から平成24年8月13日まで）の株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3. 平成24年3月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間の国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	3,422 百万円	3,406 百万円
退職給付信託	334	334
未払賞与	1,904	1,930
その他有価証券等時価会計評価損	1,669	381
未払費用	1,590	1,634
未実現利益消去	1,398	1,396
減価償却費	655	639
繰延資産	75	52
貸倒引当金	172	212
その他	2,621	2,789
繰延税金資産小計	13,845	12,777
評価性引当額	△2,052	△2,169
繰延税金資産合計	11,792	10,607
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮記帳積立金	△3,445	△3,469
新規連結子会社の時価評価に伴う評価差額	△1,223	△1,223
その他有価証券評価差額金	△1,207	△1,675
その他	△79	△22
繰延税金負債合計	△5,955	△6,390
繰延税金資産の純額	5,836	4,216

(注) 繰延税金資産の純額は、連結財務諸表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	3,776百万円	4,347百万円
固定資産－繰延税金資産	2,940	2,301
流動負債－その他	△1	△0
固定負債－その他	△879	△2,432

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
連結財務諸表提出会社の法定実効税率	40.5%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.2%	2.9%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.6%	△1.3%
住民税均等割等	2.5%	2.3%
評価性引当額	△4.7%	1.4%
試験研究費等税額控除	△1.5%	△0.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.7%	－%
その他	△4.2%	△1.9%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.9%	41.2%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要及び金額の算定方法

定期借地権契約に伴う原状回復義務及びアスベストを除去する義務に関し資産除去債務を計上しております。
資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間は3年から50年、割引率は0.6%から2.3%を使用しております。

ロ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
期首残高	354百万円	302百万円
時の経過による調整額	3	2
資産除去債務の履行による減少額等	△54	△39
期末残高	302	265

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等（土地を含む）を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,752百万円（賃貸収益は主として売上高に計上、賃貸費用は主として売上原価に計上）、減損損失は32百万円（特別損失に計上）であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,981百万円（賃貸収益は主として売上高に計上、賃貸費用は主として売上原価に計上）、減損損失は165百万円（特別損失に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額および時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	28,262	28,805
期中増減額	543	△38
期末残高	28,805	28,766
期末時価	42,481	37,980

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2 期中増減額のうち、前連結会計年度には賃貸割合の増加等（551百万円）および減損損失（32百万円）が含まれており、当連結会計年度には減損損失（165百万円）が含まれております。
3 期末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額を記載しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために独立した財務情報を把握している構成単位で、定期的に検討を行う対象としているものであります。

当社グループは製品・サービス別の各事業を基礎とした事業セグメントから構成されており、その中から「食品事業」を報告セグメントとしております。

「食品事業」では主に市乳、乳製品、アイスクリーム、飲料などの製造・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	食品				
売上高					
外部顧客への売上高	556,625	21,673	578,299	—	578,299
セグメント間の内部売上高または振替高	370	7,453	7,823	△7,823	—
計	556,996	29,126	586,123	△7,823	578,299
セグメント利益	18,677	3,420	22,097	△8,913	13,184
セグメント資産	294,767	44,950	339,718	26,472	366,190
その他の項目					
減価償却費	16,376	624	17,000	275	17,276
のれんの償却額	125	—	125	—	125
持分法適用会社への投資額	1,248	—	1,248	—	1,248
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	18,618	513	19,132	81	19,214

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	食品				
売上高					
外部顧客への売上高	568,843	22,354	591,197	—	591,197
セグメント間の内部売上高ま たは振替高	393	7,472	7,866	△7,866	—
計	569,237	29,826	599,063	△7,866	591,197
セグメント利益	15,376	3,577	18,954	△8,788	10,166
セグメント資産	293,418	47,579	340,997	27,500	368,498
その他の項目					
減価償却費	16,737	586	17,323	350	17,674
のれんの償却額	127	—	127	—	127
持分法適用会社への投資額	1,284	—	1,284	—	1,284
有形固定資産及び無形固定資 産の増加額	15,819	696	16,515	493	17,008

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料、プラント設備の設計施工、不動産の賃貸などが含まれております。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益 (百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	△717	△703
全社費用※	△8,196	△8,085
合計	△8,913	△8,788

※ 全社費用は、主に事業セグメントに配賦していない一般管理費であります。

(2)セグメント資産 (百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	△5,117	△4,915
全社資産※	31,590	32,416
合計	26,472	27,500

※ 全社資産は、主に事業セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。

(3)減価償却費の調整額は、主に本社設備等に係る償却費であります。

(4)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に本社設備等に係る投資額であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	食品	その他	全社・消去	合計
減損損失	1,820	—	—	1,820

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	食品	その他	全社・消去	合計
減損損失	224	165	—	390

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	食品	その他	全社・消去	合計
当期償却額	125	—	—	125
当期末残高	1,008	—	—	1,008

なお、平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	食品	その他	全社・消去	合計
当期償却額	201	1	—	203
当期末残高	2,164	15	—	2,179

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	食品	その他	全社・消去	合計
当期償却額	127	—	—	127
当期末残高	909	—	—	909

なお、平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	食品	その他	全社・消去	合計
当期償却額	301	1	—	303
当期末残高	1,862	14	—	1,876

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当連結会計年度において、食品事業において218百万円の負ののれん発生益を計上しております。これは、連結子会社株式を追加取得したことによるものです。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当連結会計年度において、食品事業において23百万円の負ののれん発生益を計上しております。これは、連結子会社株式を追加取得したことによるものです。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当連結会計年度については、該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当連結会計年度については、該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
1株当たり純資産額	449.35円	469.07円
1株当たり当期純利益金額	18.39円	20.04円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	18.34円	19.98円

（注）1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額（百万円）	4,608	5,016
普通株式に係る当期純利益金額（百万円）	4,608	5,016
期中平均株式数（千株）	250,646	250,328
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額（百万円）	—	—
普通株式増加数（千株）	611	710
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
		平成 年 月 日					平成 年 月 日
当社	第5回無担保社債	17. 4. 26	10,000 (10,000)	—	年 1.07	無担保社債	24. 4. 26
当社	第7回無担保社債	18. 4. 24	15,000	15,000 (15,000)	年 1.89	無担保社債	25. 4. 24
当社	第8回無担保社債	19. 8. 6	15,000	15,000	年 1.98	無担保社債	26. 8. 6
当社	第9回無担保社債	21. 12. 15	10,000	10,000	年 1.20	無担保社債	28. 12. 15
当社	第10回無担保社債	22. 2. 5	10,000	10,000	年 1.00	無担保社債	28. 2. 5
当社	第11回無担保社債	24. 3. 6	10,000	10,000	年 0.69	無担保社債	30. 3. 6
合計	—	—	70,000 (10,000)	60,000 (15,000)	—	—	—

(注) 1 連結決算日後5年間の償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
15,000	15,000	10,000	10,000	10,000

2 前期末残高及び当期末残高の()内は、1年以内の償還予定額であります。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,441	4,863	1.03	—
1年以内に返済予定の長期借入金	5,111	11,331	1.54	—
1年以内に返済予定のリース債務	1,580	1,912	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	23,374	25,088	1.32	平成27年～35年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,570	3,785	—	—
その他有利子負債				
コマーシャル・ペーパー	—	—	—	—
その他	7,866	7,931	1.00	—
合計	45,943	54,913	—	—

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
- 2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
- 3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	4,012	3,065	2,593	8,190
リース債務	1,263	1,057	726	369

- 4 「その他有利子負債」の「その他」は営業保証金等であり、連結決算日後5年以内における返済予定額は、その金額を確定できないため記載を省略しております。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	150,763	317,097	460,787	591,197
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(百万円)	3,219	8,370	9,347	8,635
四半期(当期)純利益金額(百万円)	1,852	5,184	5,813	5,016
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	7.39	20.69	23.20	20.04

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額(円)	7.39	13.29	2.51	△3.20

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,030	14,911
受取手形	※7 1,207	※7 1,139
売掛金	※4 43,063	※4 46,020
商品及び製品	23,873	26,716
原材料及び貯蔵品	4,595	4,216
前払費用	522	305
繰延税金資産	3,000	3,507
関係会社短期貸付金	10,310	9,268
立替金	※4 4,374	※4 6,971
未収入金	5,193	4,414
未収還付法人税等	1,480	418
未収消費税等	116	—
その他	1,102	1,132
貸倒引当金	△2,445	△2,303
流動資産合計	110,426	116,718
固定資産		
有形固定資産		
建物	79,872	83,359
減価償却累計額	△41,651	△43,677
建物（純額）	※1 38,221	※1 39,681
構築物	12,327	12,884
減価償却累計額	△8,012	△8,314
構築物（純額）	4,315	4,569
機械及び装置	186,243	190,465
減価償却累計額	△143,226	△147,340
機械及び装置（純額）	43,016	43,124
車両運搬具	50	42
減価償却累計額	△46	△39
車両運搬具（純額）	4	3
工具、器具及び備品	11,958	11,681
減価償却累計額	△9,812	△9,592
工具、器具及び備品（純額）	2,145	2,088
土地	※1 41,184	※1 41,078
リース資産	4,636	5,690
減価償却累計額	△1,765	△2,693
リース資産（純額）	2,871	2,997
建設仮勘定	4,505	2,129
有形固定資産合計	136,264	135,672

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
無形固定資産		
のれん	39	27
借地権	3,321	3,321
商標権	3	2
ソフトウェア	38	88
リース資産	721	1,060
電話加入権	112	111
その他	58	163
無形固定資産合計	4,294	4,774
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 9,455	※1 9,256
関係会社株式	8,679	8,916
出資金	56	56
関係会社出資金	16,584	17,037
長期貸付金	3	2
関係会社長期貸付金	10,178	10,140
固定化営業債権	※2 45	※2 91
長期前払費用	2,240	2,302
繰延税金資産	354	—
粉乳中毒救済基金(特定包括信託)	※3 3,041	※3 3,022
その他	2,669	2,625
貸倒引当金	△117	△96
投資その他の資産合計	53,191	53,353
固定資産合計	193,751	193,800
資産合計	304,178	310,518
負債の部		
流動負債		
支払手形	※4 119	※4 144
買掛金	※4 44,181	※4 47,243
電子記録債務	※4, ※7 5,065	※4, ※7 5,025
1年内償還予定の社債	10,000	15,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 3,160	※1 9,403
リース債務	1,141	1,287
未払金	8,442	6,636
未払費用	※4 23,821	※4 23,656
未払消費税等	—	214
前受金	82	72
預り金	※4 40,437	※4 44,698
設備関係支払手形	362	20
流動負債合計	136,815	153,403

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
固定負債		
社債	60,000	45,000
長期借入金	※1 15,809	※1 18,406
リース債務	2,656	2,983
繰延税金負債	—	1,410
退職給付引当金	6,820	6,975
資産除去債務	117	77
その他	1,309	1,283
固定負債合計	86,713	76,137
負債合計	223,528	229,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,704	21,704
資本剰余金		
資本準備金	19,478	19,478
資本剰余金合計	19,478	19,478
利益剰余金		
利益準備金	3,529	3,529
その他利益剰余金		
配当引当積立金	5,200	5,200
固定資産圧縮積立金	6,055	6,111
別途積立金	18,000	18,000
繰越利益剰余金	5,820	6,402
利益剰余金合計	38,604	39,242
自己株式	△1,241	△2,298
株主資本合計	78,546	78,126
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,920	2,653
評価・換算差額等合計	1,920	2,653
新株予約権	183	196
純資産合計	80,649	80,977
負債純資産合計	304,178	310,518

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	※11 437,330	※11 446,218
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	21,328	23,828
当期製品製造原価	208,740	214,020
当期商品仕入高	※11 121,862	※11 126,314
合計	351,930	364,163
他勘定振替高	※1 2,468	※1 2,291
商品及び製品期末たな卸高	23,828	26,669
売上原価合計	※2 325,633	※2 335,203
売上総利益	111,697	111,015
販売費及び一般管理費	※3, ※4 106,247	※3, ※4 108,639
営業利益	5,449	2,376
営業外収益		
受取利息	235	246
受取配当金	※11 3,099	※11 3,086
受取家賃	※11 1,074	※11 1,047
雑収入	※5 539	※5 900
営業外収益合計	4,948	5,280
営業外費用		
支払利息	516	509
社債利息	913	876
コマーシャル・ペーパー利息	2	1
雑損失	263	292
営業外費用合計	1,696	1,679
経常利益	8,701	5,977
特別利益		
固定資産売却益	※6 74	※6 256
補助金収入	213	—
投資有価証券売却益	56	6
その他	5	—
特別利益合計	349	263
特別損失		
固定資産処分損	※7 293	※7 341
公益財団法人ひかり協会負担金	※8 1,671	※8 1,663
減損損失	※9 1,376	※9 224
工場再編費用	548	259
災害による損失	※10 797	—
その他	241	227
特別損失合計	4,929	2,716
税引前当期純利益	4,121	3,525
法人税、住民税及び事業税	459	265
法人税等調整額	1,008	865
法人税等合計	1,467	1,130
当期純利益	2,654	2,394

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 原材料費	※ 2	130,467	62.5	134,174	62.7
II 労務費		13,092	6.3	13,081	6.1
III 経費		65,180	31.2	66,766	31.2
当期総製造費用		208,740	100	214,022	100
期首半製品たな卸高		44		44	
合計		208,784		214,067	
期末半製品たな卸高		44		46	
当期製品製造原価		208,740		214,020	

(注) 1 原価計算の方法

当社は、製品別総合原価計算の方法により製品別に原価計算を行っております。

直接費は製品別実際使用高により直課し、間接費は工場ごとの月次発生額を部門ごとに集計し、部門費としたうえで、部門からうける用役の割合に応じて製品別に配賦し、製造原価を算定しております。

※ 2 経費のうち主なものは次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
減価償却費	10,165百万円	10,385百万円
動力・用水・光熱費	8,183百万円	9,132百万円

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	21,704	21,704
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	21,704	21,704
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	19,478	19,478
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	19,478	19,478
その他資本剰余金		
当期首残高	—	—
当期変動額		
自己株式の処分	△0	△2
利益剰余金から資本剰余金への振替	0	2
当期変動額合計	—	—
当期末残高	—	—
資本剰余金合計		
当期首残高	19,478	19,478
当期変動額		
自己株式の処分	△0	△2
利益剰余金から資本剰余金への振替	0	2
当期変動額合計	—	—
当期末残高	19,478	19,478
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	3,529	3,529
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	3,529	3,529
その他利益剰余金		
配当引当積立金		
当期首残高	5,200	5,200
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	5,200	5,200
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	5,628	6,055
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	△50	△65
固定資産圧縮積立金の積立	477	121
当期変動額合計	426	56
当期末残高	6,055	6,111

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
別途積立金		
当期首残高	15,400	18,000
当期変動額		
別途積立金の積立	2,600	—
当期変動額合計	2,600	—
当期末残高	18,000	18,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	7,948	5,820
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	50	65
固定資産圧縮積立金の積立	△477	△121
別途積立金の積立	△2,600	—
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	2,654	2,394
利益剰余金から資本剰余金への振替	△0	△2
当期変動額合計	△2,127	581
当期末残高	5,820	6,402
利益剰余金合計		
当期首残高	37,705	38,604
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	—	—
固定資産圧縮積立金の積立	—	—
別途積立金の積立	—	—
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	2,654	2,394
利益剰余金から資本剰余金への振替	△0	△2
当期変動額合計	899	637
当期末残高	38,604	39,242
自己株式		
当期首残高	△1,234	△1,241
当期変動額		
自己株式の取得	△10	△1,071
自己株式の処分	3	14
当期変動額合計	△6	△1,057
当期末残高	△1,241	△2,298
株主資本合計		
当期首残高	77,653	78,546
当期変動額		
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	2,654	2,394
自己株式の取得	△10	△1,071
自己株式の処分	3	12
利益剰余金から資本剰余金への振替	—	—
当期変動額合計	892	△419
当期末残高	78,546	78,126

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,109	1,920
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	810	733
当期変動額合計	810	733
当期末残高	1,920	2,653
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,109	1,920
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	810	733
当期変動額合計	810	733
当期末残高	1,920	2,653
新株予約権		
当期首残高	153	183
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	29	13
当期変動額合計	29	13
当期末残高	183	196
純資産合計		
当期首残高	78,916	80,649
当期変動額		
剰余金の配当	△1,754	△1,754
当期純利益	2,654	2,394
自己株式の取得	△10	△1,071
自己株式の処分	3	12
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	840	747
当期変動額合計	1,732	327
当期末残高	80,649	80,977

【注記事項】

(重要な会計方針)

- 1 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法
 - (2) 自己株式
移動平均法による原価法
 - (3) その他有価証券
 - ① 時価のあるもの
期末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - ② 時価のないもの
移動平均法による原価法
- 2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法
 - (1) デリバティブ
時価法
 - (2) 特定包括信託等
粉乳中毒事件に関連し、被災者救済事業資金の支出を確実にすることを目的として設定する粉乳中毒救済基金の特定包括信託については、その他有価証券に準じて評価しております。
- 3 たな卸資産の評価基準及び評価方法
商品、製品、半製品
総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
原材料、貯蔵品
移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
- 4 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
建物及び建物附属設備については定額法、その他の資産については定率法によっております。
ただし、神戸工場の建物及び建物附属設備並びにその他の資産について定額法を採用しております。
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
ただし、販売目的のソフトウェアについては、販売可能期間の見積り（3年）に基づく定額法によっております。
 - (3) リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
ただし、リース物件の所有権が借主に移転するものと認められる以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の貸借借処理に係る方法に準じた会計処理によっております。
- 5 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。
過去勤務債務については、発生時の従業員の平均残存勤務期間による定額法により均等償却を行っております。
数理計算上の差異については、発生年度における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、翌事業年度から費用処理することとしております。

6 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについて、金融商品会計に係る会計基準に定める特例処理の要件を満たしており、この特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段…金利スワップ

ヘッジ対象…借入金の利息

(3) ヘッジ方針

権限規定に基づき、金融市場の金利変動リスクの対応手段として、デリバティブ取引を実施しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップについては特例処理によっており、有効性の評価を省略しております。

7 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
土地	34百万円	34百万円
建物	9,729	10,555
投資有価証券	10	10
合計	9,773	10,599

なお、投資有価証券は宅建業営業保証金として担保に供したものであります。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
長期借入金（一年以内返済予定含む）	8,583百万円	7,624百万円

※2 固定化営業債権は財務諸表等規則第32条第1項第10号の債権であります。なお、同債権に係る貸倒見積高について貸倒引当金を設定しております。

※3 粉乳中毒事件に関連し、昭和49年6月より設定しているもので、被災者救済事業資金の支出を確実にするための基金であります。

※4 関係会社に対する資産・負債の内訳

区分掲記したもの以外で各科目に含まれている主なものは下記のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
売掛金	15,529百万円	18,796百万円
立替金	4,247	6,892
支払手形	19	47
買掛金	9,062	9,801
電子記録債務	1,727	1,761
未払費用	2,522	2,341
預り金	23,437	28,860

5 偶発債務

次の関係会社について、取引先に対する商品代金、預り敷金、及び金融機関からの借入に対し、債務保証及び保証予約を行っております。

(1) 債務保証

前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
㈱サンフコ (仕入債務)	2百万円	㈱サンフコ (仕入債務)	2百万円
東北森永乳業㈱ (借入債務)	1,278	東北森永乳業㈱ (借入債務)	1,107
計	1,280	計	1,109

(2) 保証予約

前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
㈱リザンコーポレーション (預り敷金)	900百万円	㈱リザンコーポレーション (預り敷金)	700百万円
北海道保証牛乳㈱ (仕入債務)	185	北海道保証牛乳㈱ (仕入債務)	161
森永ニュートリショナルフーズ INC. (借入債務)	197	森永ニュートリショナルフーズ INC. (借入債務)	159
	(2,400千米ドル)		(1,700千米ドル)
計	1,282	計	1,020

6 コミットメントライン契約

提出会社は、機動的な資金調達を行うために取引金融機関14行との間で、コミットメントライン契約を締結しておりますが、当事業年度末において借入は実行していません。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
コミットメントラインの総額	30,000百万円	30,000百万円
借入実行残高	—	—
借入未実行残高	30,000	30,000

※7 期末日満期手形及び電子記録債務

期末日満期手形及び電子記録債務の処理については手形交換日等をもって決済処理しております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形及び電子記録債務が年度末残高に含まれておりません。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	318百万円	340百万円
電子記録債務	552	535

(損益計算書関係)

※1 他勘定振替高は主として、寄贈、工場見学者に使用した製品及び商品であり販売費及び一般管理費中の拡売費等に計上しております。

※2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。なお、以下の金額は戻入額と相殺した後のものであります。

前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
△171百万円	353百万円

※3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度85%、当事業年度86%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度15%、当事業年度14%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
拡売費	53,098百万円	55,149百万円
広告宣伝費	5,053	4,997
運送費・保管料	17,220	17,653
従業員給料・賞与	14,306	14,287
福利厚生費	2,510	2,563
減価償却費	1,153	1,262
貸倒引当金繰入額	△133	△104

※4 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
4,829百万円	4,896百万円

※5 不要物品の売却益などであります。

※6 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
土地	63百万円	255百万円
機械及び装置他	10	0
計	74	256

※7 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械及び装置	176百万円	203百万円
建物	40	52
工具、器具及び備品他	76	84
計	293	341

※8 公益財団法人ひかり協会による粉乳中毒事件の全被災者を対象とした救済事業の事業資金負担額であり、昭和49年4月以降支出しております。

※9 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
鹿児島県鹿屋市	遊休資産	土地及び建物等	30
香川県高松市	遊休資産	土地	3
福島県郡山市 (郡山工場)	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	719
徳島県名西郡 (徳島工場)	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	622
計			1,376

当社は、事業用資産については管理会計上の事業区分を基本とし、賃貸資産および遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。上記資産は遊休状態となり、今後の使用見込みもないため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（1,376百万円）として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物554百万円、構築物350百万円、機械装置434百万円、工具器具備品8百万円、土地27百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、この評価額は、土地については路線価による相続税評価額を基準として算定し、その他の資産については零として評価しております。

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
北海道恵庭市 (札幌工場)	遊休資産	建物、構築物及び機械装置等	224

当社は、事業用資産については管理会計上の事業区分を基本とし、賃貸資産および遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。上記資産は遊休状態となり、今後の使用見込みもないため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（224百万円）として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物39百万円、構築物9百万円、機械装置174百万円、車輛運搬具0百万円、工具器具備品1百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、上記資産については零として評価しております。

※10 災害による損失は、東日本大震災によるものであり、主な内訳は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
たな卸資産減失損	203百万円	—百万円
固定資産減失損及び原状回復費用	206	—
被災者・被災地への義援金及び物資支援等	216	—

※11 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
関係会社に対する売上高	106,580百万円	113,225百万円
関係会社からの仕入高	101,872	105,935
関係会社からの受取配当金	2,774	2,833
関係会社からの社宅料及び賃貸料	757	760

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式 (注) 1, 2	3,316	33	10	3,340
合計	3,316	33	10	3,340

(注) 1. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り請求によるものであります。

2. 自己株式の数の減少は、単元未満株式の買増し請求による減少5千株及びストックオプションの行使による減少5千株によるものであります。

当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式 (注) 1, 2	3,340	3,721	39	7,022
合計	3,340	3,721	39	7,022

(注) 1. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り請求による増加21千株及び取締役会決議による自己株式取得による増加3,700千株によるものであります。

2. 自己株式の数の減少は、単元未満株式の買増し請求による減少1千株及びストックオプションの行使による減少38千株によるものであります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引 (借手側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として食品事業における生産設備 (機械及び装置) 及び販売設備 (工具、器具及び備品) であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	854	564	290
工具、器具及び備品	2,012	1,770	242
その他	908	848	60
合計	3,774	3,182	592

(単位：百万円)

	当事業年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	772	553	219
工具、器具及び備品	56	51	4
合計	829	605	223

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	368	69
1年超	224	154
合計	592	223

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	962	368
減価償却費相当額	962	368

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引（借手側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：百万円）

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	14	12
1年超	20	15
合計	35	28

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式7,815百万円、関連会社株式1,100百万円、前当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式7,575百万円、関連会社株式1,104百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	1,965 百万円	1,986 百万円
退職給付信託	334	334
その他有価証券等時価会計評価損	3,158	1,860
未払賞与	1,460	1,466
未払費用	1,432	1,474
減価償却費	362	374
繰延資産	65	38
貸倒引当金	790	806
その他	1,023	1,422
繰延税金資産小計	10,593	9,765
評価性引当額	△2,792	△2,843
繰延税金資産合計	7,801	6,921
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮記帳積立金	△3,362	△3,390
その他有価証券評価差額金	△1,027	△1,432
その他	△56	△0
繰延税金負債合計	△4,445	△4,823
繰延税金資産の純額	3,355	2,097

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.5%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.1%	5.9%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△13.7%	△15.3%
住民税均等割等	2.9%	3.4%
試験研究費等税額控除	△2.9%	△0.6%
評価性引当額	1.5%	1.5%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	5.5%	—%
その他	△3.3%	△0.9%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.6%	32.1%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要及び金額の算定方法

アスベストを除去する義務に関し資産除去債務を計上しております。資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間は3年から45年、割引率は0.6%から2.3%を使用しております。

ロ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
期首残高	145百万円	117百万円
時の経過による調整額	0	0
資産除去債務の履行による減少額等	△28	△39
期末残高	117	77

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	321.05円	327.11円
1株当たり当期純利益金額	10.59円	9.57円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	10.56円	9.54円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(百万円)	2,654	2,394
普通株式に係る当期純利益金額(百万円)	2,654	2,394
期中平均株式数(千株)	250,646	250,328
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	611	710
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—————	

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	ゼリア新薬工業(株)	1,854,741	2,693
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,799,000	1,561
		(株)みずほフィナンシャルグループ	3,940,000	784
		森永製菓(株)	3,431,921	706
		(株)武蔵野銀行	90,262	333
		(株)みずほフィナンシャルグループ(優先株式)	500,000	242
		(株)オークワ	207,998	217
		イオン(株)	158,242	192
		太陽化学(株)	242,000	172
		鴻池運輸(株)	100,000	151
		その他(114銘柄)	2,353,929	2,191
計		15,678,093	9,246	

【債券】

銘柄		券面総額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	第101回利付国庫債券(1銘柄)	10	10
計		10	10	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	79,872	3,936	450 (39)	83,359	43,677	2,368	39,681
構築物	12,327	672	115 (9)	12,884	8,314	397	4,569
機械及び装置	186,243	8,555	4,334 (174)	190,465	147,340	8,012	43,124
車両運搬具	50	—	7 (0)	42	39	0	3
工具、器具及び備品	11,958	661	938 (1)	11,681	9,592	661	2,088
土地	41,184	76	182	41,078	—	—	41,078
リース資産	4,636	1,092	38	5,690	2,693	957	2,997
建設仮勘定	4,505	11,060	13,436	2,129	—	—	2,129
有形固定資産計	340,779	26,055	19,502 (224)	347,331	211,659	12,397	135,672
無形固定資産							
のれん	60	—	—	60	33	12	27
借地権	3,321	—	—	3,321	—	—	3,321
商標権	8	—	—	8	5	0	2
ソフトウェア	99	66	—	166	78	16	88
電話加入権	112	—	0	111	—	—	111
リース資産	1,142	647	—	1,789	729	308	1,060
その他	173	189	74	287	123	9	163
無形固定資産計	4,917	903	75	5,745	970	347	4,774
長期前払費用	4,146	1,502	2,247	3,402	1,099	1,448	2,302

- (注) 1 建物の増加のうち、主なものは神戸工場(2,234百万円)であります。機械及び装置の増加のうち、主なものは利根工場(1,964百万円)、盛岡工場(1,402百万円)、東京多摩工場(1,151百万円)であり、減少のうち、主なものは札幌工場(1,883百万円)、盛岡工場(536百万円)であります。
- 2 建設仮勘定の増加のうち、主なものは神戸工場(2,878百万円)、利根工場(1,747百万円)、盛岡工場(1,312百万円)であります。
- 3 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	2,563	2,399	5	2,558	2,399

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、洗替による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

(I) 流動資産

a 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	4
預金	
当座預金	14,180
普通預金	705
定期預金	19
別段預金	1
郵便貯金	0
計	14,906
合計	14,911

b 受取手形

相手先	金額(百万円)
(株)丸菱	125
燈尚物産(有)	107
東亜商事(株)	106
三栄乳販(株)	94
(株)イイズカ	65
その他(注)	639
計	1,139

(注) 三栄源エフ・エフ・アイ(株)他

受取手形の期日別内訳

期日	25年4月	5月	6月	7月	8月以降	計
金額(百万円)	1,035	59	33	11	—	1,139

c 売掛金

相手先	金額(百万円)
(株)デイリーフーズ	7,244
(株)クリニコ	3,305
北海道森永乳業販売(株)	2,225
三菱食品(株)	1,833
(株)東京デリー	1,444
その他(注)	29,967
計	46,020

(注) (株)日本アクセス他

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

区分	当期首残高 (百万円) A	当期発生高 (百万円) B	当期回収高 (百万円) C	当期末残高 (百万円) D	回収率(%) $\frac{C}{A+B} \times 100$	滞留期間(日) $(\frac{D}{B} \times 365)$
金額	43,063	468,529	465,572	46,020	91.00	35.9

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

d 商品及び製品

品名	金額(百万円)	品名	金額(百万円)
練乳	1,272	市乳	1,740
粉乳	6,218	アイスクリーム	4,377
バター	4,513	その他	5,740
チーズ	2,852	計	26,716

e 原材料及び貯蔵品

品名	金額(百万円)
砂糖・原料乳	374
その他原料	1,714
牛乳瓶他包装材料	489
重油	17
修理用部品	1,197
その他貯蔵品 (注)	422
計	4,216

(注) 幹旋品他

(II) 固定資産

a 関係会社出資金

区分	金額(百万円)
匿名組合出資金	14,041
その他	2,996
計	17,037

(III) 流動負債

a 支払手形

相手先	金額(百万円)
(株)ワンダーライフ	69
ヤスダファインテ(株)	42
富士製餡工業(株)	16
ジェイ・ウォルター・トンプソン・ジャパン(同)	6
オークラサービス(株)	1
その他 (注)	7
計	144

(注) 芝江産業(株)他

支払手形の期日別内訳

期日	25年4月	5月	6月	7月	8月以降	計
金額(百万円)	35	29	25	54	—	144

b 買掛金

相手先	金額(百万円)
ホクレン農業協同組合連合会	3,908
三栄源エフ・エフ・アイ(株)	2,753
長谷川香料(株)	2,621
日本製紙(株)	2,333
大日本印刷(株)	2,109
その他 (注)	33,518
計	47,243

(注) エムケーチーズ(株)他

c 電子記録債務

相手先	金額(百万円)
(株)生駒化学工業	3,263
(株)サンフコ	1,761
計	5,025

電子記録債務の期日別内訳

期日	25年4月	5月	6月	7月	8月以降	計
金額(百万円)	1,835	1,260	935	994	—	5,025

d 未払金

区分	金額(百万円)
未払設備代	3,520
その他	3,115
計	6,636

e 未払費用

区分	金額(百万円)	区分	金額(百万円)
運賃・保管料	4,562	その他	9,785
未払給与賞与	4,055	計	23,656
広告・拡売費	5,252		

f 預り金

区分	金額(百万円)	区分	金額(百万円)
関係会社資金 預り金	28,792	社会保険料	138
得意先営業預り金	6,847	その他	334
取引先預り金	8,585	計	44,698

(IV) 固定負債

a 社債

銘柄	未償還残高 (百万円)	利率(%)	償還期限 (平成 年 月)	担保
第7回無担保社債	15,000 (15,000)	年1.890	25. 4. 24	無
第8回無担保社債	15,000	年1.980	26. 8. 6	無
第9回無担保社債	10,000	年1.200	28. 12. 15	無
第10回無担保社債	10,000	年1.000	28. 2. 5	無
第11回無担保社債	10,000	年0.694	30. 3. 6	無
合計	60,000 (15,000)			

(注) ()内は内書きで、社債のうち一年以内償還予定社債であり、貸借対照表においては流動負債に計上しております。

b 長期借入金

借入先	金額 (百万円)	用途	返済期限 (平成 年 月)	担保
㈱日本政策金融公庫	8,534 (1,693)	設備資金	35. 2. 25	一部 有
㈱みずほ銀行	5,980 (2,228)	長期運転資金	32. 3. 31	無
㈱三井住友銀行	3,635 (1,081)	〃	32. 3. 31	無
㈱三菱東京UFJ銀行	2,660 (856)	〃	32. 3. 31	無
㈱日本政策投資銀行	2,000 (2,000)	〃	26. 2. 9	無
三菱UFJ信託銀行㈱	1,850 (606)	〃	32. 3. 31	無
農林中央金庫	1,850 (606)	〃	32. 3. 31	無
日本生命保険(相)	866 (158)	〃	32. 3. 31	無
㈱国際協力銀行	250 (125)	設備資金	26. 4. 28	無
明治安田生命保険(相)	184 (46)	長期運転資金	30. 3. 30	無
計	27,809 (9,403)			

(注) ()内は内書きで、長期借入金のうち一年以内返済予定長期借入金であり、貸借対照表においては流動負債に計上しております。

(3) 【その他】

特記事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告は、電子公告により行う。事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 ホームページアドレス http://www.morinagamilk.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利、募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利および当社定款に定める単元未満株式の買増しを請求する権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類並びに確認書	事業年度 (第89期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月29日 関東財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書及びその添付書類			平成24年6月29日 関東財務局長に提出。
(3) 訂正発行登録書(社債)			平成24年6月29日 関東財務局長に提出。
(4) 発行登録書(新株予約権証券) 及びその添付書類			平成24年6月29日 関東財務局長に提出。
(5) 臨時報告書	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2に基づく臨時報告書であります。		平成24年7月2日 関東財務局長に提出。
(6) 訂正発行登録書(社債)			平成24年7月2日 関東財務局長に提出。
(7) 訂正発行登録書(新株予約権証券)			平成24年7月2日 関東財務局長に提出。
(8) 四半期報告書及び確認書	(第90期第1四半期)	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	平成24年8月13日 関東財務局長に提出。
(9) 訂正発行登録書(社債)			平成24年8月13日 関東財務局長に提出。
(10) 訂正発行登録書(新株予約権証券)			平成24年8月13日 関東財務局長に提出。
(11) 四半期報告書及び確認書	(第90期第2四半期)	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	平成24年11月13日 関東財務局長に提出。
(12) 訂正発行登録書(社債)			平成24年11月13日 関東財務局長に提出。
(13) 訂正発行登録書(新株予約権証券)			平成24年11月13日 関東財務局長に提出。
(14) 四半期報告書及び確認書	(第90期第3四半期)	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	平成25年2月13日 関東財務局長に提出。
(15) 訂正発行登録書(社債)			平成25年2月13日 関東財務局長に提出。
(16) 訂正発行登録書(新株予約権証券)			平成25年2月13日 関東財務局長に提出。
(17) 自己株券買付状況報告書			平成25年4月11日 関東財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月21日

森永乳業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 大坂谷 卓 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 市瀬 俊司 ㊞
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている森永乳業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、森永乳業株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、森永乳業株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、森永乳業株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月21日

森永乳業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大坂谷 卓 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 市瀬 俊司 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている森永乳業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第90期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、森永乳業株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。